期し支那側の誠意を喚起すべしとする要望旺然と起る

四月六日　奉海滿鐵の聯絡問題に關し支那側交渉署長高清和奉海滿鐵の聯絡を復活せしむべく滿鐵側に妥協的に申込み滿鐵は之を峻拒す

四月七日　奉海線問題に關して奉天派官憲より回答ありしも全く誠意を缺けるものにして

（一）洮昂鐵路の滿鐵に對する擔保車輛移動不法問題

（二）京奉線と滿鐵のクロス協約違反問題、共に條理を無視せるものである

四月九日　奉海線問題に關する蜂谷總領事代理の再警告支那側に手交さる、猶京奉鐵路局と奉海鐵路局の運輸聯絡協定は六日正式に調印された

四月十日　奉海鐵路問題に關する外務省の方針決し順序を踏んで交渉し反省せずは自衛手段をとることとなり四洮鐵路局長の調停は之を拒絶する處あつた、尙同時に奉海鐵道に關する石炭代四洮鐵路借款利子の支拂、洮昂鐵路の建設費不拂兵工廠關係の鐵道事項等に關して問題視さる

四月十日　撫順大山坑に侵水し坑夫多數の行方氣遣はる

四月十一日　奉天總領事奉海線問題に關して第二警告を發し兵工廠廻入の貨車廻入を停止す

四月十二日　奉海線問題に關する我自衛策の一部斷行され支那軍隊の輸送をも拒絶す奉海線問題に關する第三次抗議に對し高交渉署長は交渉を北京に移すべきを主張す

四月十二日　再起計畫を樹てた大刀會は近く通化襲擊の報傳はる

四月十二日　奉天省劉省長は省財政の緩和を圖るため大增稅案を樹つ

東邊馬賊東邊好四海安東總商會に大金を要求脅迫す

四月十三日　農安地方警備官關內出動のため約六百の馬賊同地一帶にて活動を開始す

四月十四日　奉天省城の全巡警物價暴騰奉票慘落のため罷業を企て發覺し主謀者逃走す

四月十四日　奉海線問題に關する日支交渉は芳澤、羅の兩氏會見し左の如く解決す

一、奉海滿鐵兩鐵聯絡は復活す但し交通部の批准を經て有効とす

二、滿鐵の洮昂鐵道に貸與せる貨車の他線流用は一時返還の形勢をとり改めて貸與申込に應ず

三、城根延長問題は改めて取決めをなす

四月十六日　奉海線問題は依然硬化狀態を呈し約千八百臺の馬車に對して附屬地入りを中止す背後に支那官憲の策動ありと傳へらる

四月十五日　沙河驛北方の部落に匪賊團來襲我守備隊及警官隊出動す

四月十八日　安奉線草河口に十餘名の馬賊來襲し我守備兵警官隊出動す

四月十九日　東邊其他各地に大刀會馬賊等割據し治安全く紊れ討伐清鄉兵は大いに惱む

四月十九日　東邊鐵路より奉海線に無斷流用して日支間の問題となりし流用車輛洮昂線に返還さる

四月廿二日　吉林軍二百名關內出動の途無斷にて滿鐵線を横切らんとし我守備隊との間に紛擾を來す

四月廿三日　奉天派の形勢不利にて東三省の留守部隊に總出動を命じ來る

四月廿五日　林奉天總領事着任

四月廿六日　通化方面の大刀會紅槍會と改名し八道溝方面襲擊の準備をなす

四月廿七日　安奉線鷄冠山四台子間の滿鐵保線工場に數十名の支那兵襲擊し來り暴行掠奪を行ひしため我守備隊出動す

四月廿八日　大連沙河口方面にて第二回の共產黨事件發現し關東州內に於ける日本の支配權を奪回すべしとする主義綱領の宣傳ビラを撒布す

五月一日　奉天當局奉天城內搬入貨物に對する銷場稅四分に引上げ之を實施す

五月一日　濟南遂に陷落し南軍濟南に入り濟南事件を惹起し邦人の大虐殺行はる

五月四日　吉林大刀會打倒張作霖の飛檄を發す

五月四日　安奉線劉家河に馬賊團來襲し人質二十名を拉致す

五月九日　日本政府第三次山東出兵を聲明す

五月九日　東邊方面駐在の奉天軍關內出動のため引揚後馬賊入込み勢威を張る馬賊分布左の如し

(一)臨江灣（平推、雙江、申山の部下七百名）

(二)八道江（頭目不洋）

(三)臨江錯草湯（監復會十百名）

(四)三岔子（頭目四百名）

(五)雙廟子（通化より百支里頭目黑平大青字）

五月十日　奉天附近公太堡子にて居住鮮農の水田植付に對し支那官憲暴力で妨害す我警察隊出動して之を保護す

五月十一日　奉天省議會及び總商會は祕密會議を開き排日通電を發し張作霖の歸奉を要請して張作霖の奉天逃込の芝居を畫策す

五月十一日　張作霖は形勢不利に陷れる奉天軍北京退却の口實を濟南事件に藉り擧國一致以て日本軍に當らざるべからずと高唱し南北兩軍停戰通電を發す

五月十四日　奉天敎育廳大中小學にて排日氣勢高潮し來れるため各校長團を召集して排日禁止を命ずる處あつたが東北大學にては依然排日演說試みられ經濟絕交を說くなど不穩の氣漂ふ

五月十六日　國民軍の京津乘込目捷に迫り奉天軍は最後の戰備をなしたるも大勢は奉天軍の敗退近きを思はしめ日本政府は張作霖沒落後に於ける對滿治安維持に關する重要會議を、在滿全領事會議を開催して協議せしむ

五月十六日　滿洲に支那動亂波及せば禁戰區域を設けて警備に任ずる事に日本の對滿方針閣議にて決定す

五月十七日　吉林鄭家屯方面に國民軍便衣隊侵入し滿洲內の鐵道を破壞し電信電話線の破壞を企つ奉天派官憲と氣脈を通じ居る旨傳へらる

五月十八日　吉林省にて歸化鮮人に對し左の取締命令發せらる

(一)歸化者は鮮人民會並に類似團體と關係を絕つこと

(二)日本側の經營する金融機關より負債をなさしめざること

(三)歸化者の子弟は縣立學校に入學せしむる事

(四)歸化者は支那服の着用の事

以上の各項を嚴守せざれば之を退去せしむ

五月十七日　芳澤矢田兩氏帝國政府の命を受け滿蒙への禍亂防止に關する警告を發し同時に右の趣列國に通告す、芳澤公使は大元帥府に張作霖を訪ひ正式に日本の警告的聲明を發し且つ禍亂の滿洲波及を防止する旨通告す

五月十八日　公主嶺駐北方蔡家屯附近に五十名の馬賊現はれ公主嶺守備隊出動す

五月十八日　我警告に對し奉天派より回答來る

五月十九日　錦州方面の奉天軍輸送を開始し關內よりの後退兵（負傷兵）續々來り山海關灤州に數萬の兵集結さる

五月十九日　奉天總領事館にて京奉線の在留民保護に關する協議を行ひ全滿の配備に處す事となり奉天に警察官八十名を增派し保護を加ふ

京奉線方面は危險迫れる報到る

五月十九日　滿鮮國境の林土の滿浦警察官派出所に支那官兵の服を着用せる馬賊鴨綠江を越えて襲擊し巡査一邦人七名の卽死者を出し賊は武器を强奪して去る

五月廿二日　京漢線方面の吉林軍續々撤退し來る

五月廿二日　關東軍司令部　及び憲兵隊本部奉天へ移動集結を行ふ、奉天は非常戒嚴狀態に入る

五月廿二日　奉天城内に排日傳單を配布す

五月廿三日　京奉滿鐵クロス第二陸橋附近鮮人部落にて支那人暴行し我鐵道守備兵のため刺さる

五月廿四日　奉天軍全線に亙り續々退去す

五月廿五日　鴨綠江溯江のプロペラー船馬賊の襲擊に遇ひ乘込み邦人二名即死し又若林中尉は馬賊のため拉去せらる

五月廿六日　東北大學に排日空氣漲り巡警三十名を以て學生團の行動を警戒す

五月廿八日　奉天總領事館より直ちに支那側に釋放交渉を開始し支那官憲狼狽を極めしも要領を得す

五月廿八日　大連沙河口の第二回共産黨事件起訴さる關係者四十六名に達す

五月廿八日　于芷山歸奉して奉海路の警戒に任す、大刀會再擧計畫に對し警備に當る

五月廿九日　關東州中國共産黨事件起訴さる我警察官壓殺の計畫を有し奉天の醫大生も逮捕さる

五月三十日　東三省々議聯合排日問題を中心として日本の出兵問題、鐵道問題に關して協議を遂ぐ

五月卅一日　張作霖は最高軍事會議の結果愈々大元帥を許し安國軍總司令として北京を撤退し奉天移動に決定し奉天軍は六月三日迄に全部關外引揚に着手することとなる

五月卅一日　若林中尉の拉去事件に關し同方面の不安增大せるため朝鮮駐屯の第二十師團を增派し邦人保護に任ぜしむ

六月一日　張作霖氏各國外交官を招き告別の挨拶をなす

六月一日　馬賊に拉致されたる若林中尉江鎭の下流錯草溝奥地にて慘殺され居るを發見す

六月一日　退却途中の奉天軍給料不渡で六月卅一日豐臺附近にて兵變を起す

六月一日　撫順萬達屋水溝にて支那暴民鮮人十二名を暴行拉去し我警察隊　十名出動す

五月二日　吳俊陞以下奉天派要路山海關に張作霖を出向ふ

六月二日　長白縣八道溝にて南方よりの便衣隊潛入說起り嚴重なる警官を開始す

六月三日　張作霖特別列車にて北京を出發奉天に引揚ぐ

六月四日　未明皇姑屯滿鐵京奉兩鐵道のクロス地點にて張作霖吳俊陞氏乘車の特別列車便衣隊の手にて爆破され張作霖吳俊陞兩氏重傷を負ふ吳俊陞氏遂に死去す

六月四日　安奉線五龍背驛南方蛤蟆附近にて鐵道線路に大石を運ばんとせるを我守備兵北川一等

卒發見し之を射殺す

六月五日　北京天津間にて京奉線爆破さる

六月五日　張作霖爆撃事件に關して我内田奉天領事前田司法領事牧田檢事代理の諸氏四日早朝より午後四時迄實地檢證を爲したが支那側來らず五日午前十時支那側安日本科長と共に内田領事爆破現狀を調査す

六月　張作霖死去説傳へらるも面會を拒絶して其の後の消息不明

六月五日　鴨綠江上流臨江縣抑水溝にて馬賊五十名掠奪放火をなし電信電話を切斷す

六月六日　北京に晴天白日旗翻り閻馮兩軍代表入城す

六月七日　奉天居留民會にて城内一掃のため我軍隊の城内派遣方を總領事館當局に懇願す

六月七日　在奉居留民警護のため警官隊增派され來る

六月七日　日本政府は滿洲の時局重大化に鑑み積極策を避け消極的防衛方針を決定す

六月七日　四日午前五時半京奉滿鐵クロス地點にて發現せる張作霖吳俊陞爆破事件に關して我林奉天總領事は右事件は便衣隊の犯行と認め犯人逮捕　事件再發防止に關して支那側に照會狀を送致す

六月七日　鴨綠江にて支那巡警三名プロペラー船にて溯江に際し我憲兵停止を命ぜしに我部隊に射撃を行ふ

六月七日　奉天城警憲聯合事務所長齊恩銘は省城の治安維持辦法二十三個條を決定し城内の警備に當る

七日附にて正式に戒嚴令を布告す

六月八日　山西軍を先頭に國民軍北京に入城す

六月八日　林奉天總領事張作霖座乘の列車爆破犯人捕縛方を公文を以て奉天政府へ要求を提出す

六月十日　支那當局の滿洲波及に關して京奉線方面の邦人に對し現地保護策を採らざるに決し邦人續々附屬地に引揚ぐ錦州新民の居留民は全部引揚を行ふ

六月十日　戒嚴中の省城及商埠地日本居留民會裏手に爆彈を投擲したる事件起る犯人不明

六月十一日　安奉線鷄冠山附近に約百名の馬賊現はれ掠奪し安東連山關鷄冠山より守備兵急行交戰し三名を射殺二十六名を捕虜とす

六月十二日　安東附近に出沒せる馬賊討伐の爲め我守備隊出動して一掃す

六月十三日　國民軍東北特務員張璧等來連し東三省政務委員會の成立を見る（告東三省民衆書）な

るパンフレットを各方面に配送す

六月十三日　滿鐵本線恒勾子驛附近に二十餘名の馬賊團現はれ我守備隊出動す

六月十四日　安奉線沙河鎭驛附近にて貨物列車に投石事件あり岡田領事をして支那側に警告を發す

南關嶺大房身間にて列車妨害事件發現さる

六月十五日　東三省の治安維持に關し袁世凱劉尙淸譚國恒及臧式毅于國齊翰恩銘楊宇霆の諸氏にて東三省治安維持會を組織し過渡期に處せんとの說傳はる

六月十五日　若林中尉事件に對し東邊道々伊も之を承認し我派遣軍撤退に決す

六月十五日　奉天兵工廠附近で爆彈所持の便衣隊（緒貴良、王有權）二名逮捕さる

六月十五日　滿鐵本線范家屯驛附近鐵道線路內に多數の小石を積みあるを發見し守備隊出動警戒す

六月十六日　鴨綠江輯安縣大荒溝にて六十名の馬賊巡警分所を襲擊燒打を行ふ

六月十六日　張學良の奉天督辦大元帥令を愈ゝ任命さる

又黑龍江督辦萬福麟氏任命を見るに決定す

六月十六日　宣統廢帝の實弟天津より大連に避難し來る

六月十六日　金川縣樣子哨支獄監にて囚人の破獄行はれ市街戰の後囚人十五名軍警三名卽死す

六月十七日　張作霖氏座乘の列車爆破事件に關し日支共同調査は未だ一致點に達せず交涉續行せらる

六月十七日　朝鮮軍中村旅團長より輯安臨江兩縣知事に要求せる林工事件に關する交涉は丙東邊道尹にて我要求を全部承認し鴨綠江沿岸警備として約千の警甲を增員する事となる

六月十八日　奉天貨の貨物苦力百二十名監督と衝突罷業を續く

六月十八日　奉天軍軍事當局は時局に關して對日無抵抗主義を示達した

六月十八日　張學良氏歸奉

六月十九日　東三省保安會成立す

六月十九日　督辦就任の告示を發し全城に五色旗を揭げて就任の祝賀す

六月十九日　張學良奉天に歸る

六月二十日　安奉線鷄冠山に馬賊現はれ我軍警出動す

六月廿一日　張作霖の死去發表す省城一般弔旗揭ぐ

六月廿一日　國民黨南方代表郭士廉一行奉天派との折衝の爲め來連東三省の國民黨化傳はる

六月廿一日　林土事件若林事件策にて越境支那領に派遣されたる我軍撤退に決して支那側に通告す

六月廿一日　北山城子に於て支那兵士と暴民邦人雜貨商を襲ひ大學して我警官を毆打應援警官奉天から急行す

六月廿二日　國民黨南方代表郭士廉于珍十餘名奉天に到着

六月廿三日　東三省外交後援會張學良の日本の傀儡たるを戒め民衆運動を起すと警告す

六月廿三日　奉天城內城廟にて張作霖逝去による接三の儀行はる

六月廿五日　奉天白日旗揭揚か東三省獨立かに就き張學良督辨十字路に起ち東三省の政局微妙に動く

六月廿五日　東三省保安總司令の後任に就き種々詮議せるも何人も辭して受けず張作相は公文を以て固辭す

七月一日　鴨綠江上流輯安縣の我軍越境警備に關して輯安縣知事の侮日的言辭に我軍部は激昂撤兵を差控へて對策、安東領事館にて日支當局會見支那側謝罪す

七月二日　張學良保安總司令就任式を擧行す南方各領袖に和平通電を發す

七月二日　安奉線草河口に馬賊出現人質を拉去す

七月三日　東三省保安總司令問題遂に張學良就任に決し省議會より推戴す

七月四日　吉長警路征事員罷業す

七月五日　東支鐵橫道河子驛附近に馬賊團來襲し鐵道を破壞し滿洲里行列車を顚覆せしめ人質二十名を拉致す

七月七日　熱河の湯玉麟保安總司令を推戴し來り東三省と提携し行くを通電す

七月七日　奉天派各機關陣容を整へ東三省保安總司令部の組織に着手す

奉天保安司令　張學良

吉林保安司令　張作相

黑龍江保安司令　萬福麟

總參謀長　榮

祕書處長　鄭謙

參謀　臧式毅　袁世凱　王樹翰　于珍　于沖漢

于國翰　談國恒　白永貞　劉陰常　陰槐

張之漢　羅文幹

七月七日　開原北方金溝子驛の中間にて線路上に大石を置き列車妨害を企てしものあるを發見守

備隊出動搜査す

七月七日　奉天省議會張宗昌の入城に對して反對の意を決議す

七月九日　張學良省議會にて保安總司令宣誓式を擧行す

七月九日　通遼驛線に爆彈仕掛あるを發見す

七月十日　安奉線高麗內に馬賊來襲し安東守備隊出動討伐す

七月十一日　新民縣公太堡の朝鮮人農夫五名支那官憲に拘禁され總領事館より警官を急派す

七月十一日　本溪縣小甸子警察分所に馬賊來襲武器を奪取して去る

七月十三日　蔣介石東三省問題に關する聲明を發し青天白日旗は强要せず三民主義の採用を要求す

七月十三日　楊宇霆歸奉す張作霖の遺書發表せらる

七月十四日　東三省一帶の馬賊團勢威を增し來る頭目分布左の如し

二虎六百（金川縣）　江東好八百（金川縣）　扱山雲二千（通化縣）

登局好五十（通化縣）　長沾十餘（通化縣）　寶順十餘（柳河縣）

老毛山二千（柳河縣）　單闖三十（柳川縣）　小西海二千（柳河縣）

平皆十餘（金川縣）　鐵雷五十（金川縣）　常勝二十（金川縣）

海楊八十（金川縣）　中國六十（通化縣）　壓東邊五十（輯安縣）

十三好百廿（通化縣）　鐵山九十（臨江縣）　西長山七十（臨江縣）

西邊好二百（臨江縣）　西山好三百（臨江縣）

△大刀會匪

魏玉田　八十餘　週老師　六十餘

張樹明　百五十餘　揚明　九十餘

七月十五日　奉天省城の戒嚴令撤去さる

七月十七日　奉天總領事館にて軍部、關東廳、滿鐵、領事館の代表參集の上重要會議を開催す

七月十九日　大石橋北方に四十名の馬賊現はれ我守備兵出動交戰す

七月十九日　林奉天總領事張學良を訪問して南北妥協に對し警告し保境安民を希望す

七月二十日　奉天財政廳日支通商條約改訂に關して輸出入貨物の暫行處置を訓令し征稅重執證による取扱を行ふべきを通告す

七月二十日　張學良村岡軍司令官に會見す

七月二十日　張宗昌の兵士奉天十間房にて電車車掌を拉去し賞上金を强奪す

七月二十日　公太堡宗家崗東亞勸業農場に於て支那農民不逞を働き鮮人と衝突せんとし、我警察隊出動す

七月二十日　奉天派國民黨との妥協問題を打切り東三省保安會最高權力を掌握し保境安民に努むる事となる

七月二十日　奉天省長劉尙淸辭任し翟文選任命
　又黑龍江省長に常陰槐任命さる

七月二十日　安東舊市街にて伐木作業上の問題から鮮人十數名に對し支那官民十數名來襲暴行を加へ拘禁せる事件起る

七月廿一日　張學良楊宇霆南方に赴き排日的態度を採る旨傳へらる

七月廿一日　張學良より林總領事に對し我勸告に從ひ當分現狀維持をなすべき旨回答し來る

七月廿二日　林奉天總領事より張學良に對したる保境安民の要望に對して張學良より大連に設置されある東省政務委員會は國民黨側の正式承認を經たるものに非ずとの理由で之が取締を要求し來り關東廳にては之と共に二十二日大連市內に居住する南方名士の祕密結社に手入れを開始する處あり、先づ黑龍江軍參謀長師恭は遁れ傳立魚沈厚の諸氏は檢擧を見るに至つた

七月廿三日　東北保安委員會は愈ゝ南北妥協を打切り保境安民を宣布する處あつた

七月廿四日　大連に於て檢擧せる國民黨系は李烈鈞にて政治軍事に策動せるものと判明し廿四日には趙雲龍も逮捕さるるに至つた

七月廿五日　吳俊陞氏の葬式盛大に行はる（奉天小河沿にて）

七月三十日　滿蒙の特殊性に關する問題に就き出先官憲の一致說傳へらる

七月下旬　琿春方面に馬賊團東北革命軍と稱して蠢動を開始す

七月廿八日　安奉線吳家屯に二十名の馬賊來襲我軍警出動して銃火を交ふ

八月二日　奉天當局東北臨時保安大綱を發表す

八月四日、四日より七日迄張作霖氏の葬儀大元帥府にて執行さる

八月四日　林權助男張作霖氏の葬儀參列の爲め來奉す

八月五日　安奉線劉家河驛附近にて林軍曹等勤務中馬賊に襲はれ腕部に負傷守備隊出動して交戰す

八月五日　鴨綠江上流臨江縣勇德溝に馬賊來襲し掠奪を行ひ住民續々避難す

八月六日　吉林蒙江縣にて馬賊仁義軍と大刀會と聯合大會を開催して反官運動を計畫排日其他の

條項十三條を決議す

八月七日　張作霖葬儀終了と共に國民黨奉天派の妥協說も傳へられ善政政治を提唱さる

八月八日　張宗昌の部下滦州山海關にて農民を虐殺暴慘甚だし

八月九日　南北妥協に對し林權助男强硬なる態度を以て靑天白日旗揭揚に反對の意を表した

八月九日　千山驛附近に馬賊出沒し人質八名を拉致し我警備隊討伐のため大石橋守備隊より五十名鞍山守備隊より四十名出動す

八月九日　林權助男と張學良との南北妥協問題に關する交涉決裂に瀕し日本政府は滿洲の治安維持を條件とし南北妥協の意向を林男に命じて張學良に密に通告す

八月十日　全滿日本人會政府政黨に對して滿洲の權益擁護に善處されたしと要望す

八月十二日　鴨綠江上流一帶の馬賊平雷上山好は討伐隊と激戰を交ふ

八月十三日　奉海、滿鐵の聯絡協定調印さる

八月十四日　呼倫貝爾の虎古靑年黨呼倫貝爾の獨立運動を開始す

八月十四日　新城子附近に馬賊三十名現はれ虎石臺守備隊より我軍憲出動す

八月十六日　呼倫貝爾獨立運動に關し蒙古兵北海に蜂起し鐵道を破壞し驛を占領す

八月十七日　楊宇霆氏林奉天總領事を訪ふ

八月十八日　萬福麟は十八日朝鮮呼倫貝爾獨立軍のため襲擊され哈爾賓に逃込む

八月二十日　在滿領事奉天に參集し領事會議を開催赤化防止に關して協議す

八月二十日　蒙古靑年黨の呼倫貝爾獨立運動蒙古獨立國建設のため策動せん形勢にて支那側吉林軍を出動せしめ鎭壓せんとす奉國妥協細目協定奉天軍事にて發表さる

八月二十日　內蒙古王奉天東三省保安總司令部に參集して治安會議を開催す

八月二十日　張宗昌下野を決す

八月廿一日　蒙古獨立運動鎭壓の爲め奉軍步兵四個旅北滿に出動す

八月廿一日　四平街桓勾子驛附近に百名の馬賊出沒し我附屬地を襲はんとせる爲め我守備隊出動す

八月廿二日　大連運動場にて日佛對抗競技會開催さる

七月廿三日　蒙古獨立運動終熄し支那も呼倫貝爾の自治を容認に關して協議さる

八月廿三日　東三省聯合會靑天白日旗を揭げ三民主義を實施すべしと說く

又總商會は對南和議と權益保全に關して張學良氏に愼重陰忍すべきを說く

八月三十日　蒙古獨立運動一時小康を得郭道爾等の首惱奉天派と折衝す

九月一日　馬賊海交の一味安奉鐵道沿線に接近し鳳凰城附近で保安隊と交戰我守備兵出動す

九月三日　張學良麾下の三四方面衞隊旅兵給料の不平から逃亡し我虎石臺守備隊警戒のため出動す

九月四日　間島方面に馬賊蠢動し市街襲擊を計畫延吉より討伐隊出動す

九月初旬　岫岩、鳳凰城兩縣下に於ける馬賊團大孤山を中心として暴威を振ふ

九月五日　安奉線吳家屯附近にて支那農夫線路にバラスを並べ列車の進行を妨害せんとせしを陳相屯守備隊の手に逮捕さる

九月五日　鷄冠山附近馬賊蠻權を極め人質十餘名を拉致し連山關の岡田守備隊長以下出動示威行軍を行ふ

九月七日　東三省の各縣農工會商務會は反目を目標とし奉天派幹部に靑天白日旗の改旗を提議す

九月八日　內蒙タラハン王府に肺ペスト發生し滿鐵關東廳調査の結果を公表し防疫を開始す

九月十一日　通化駐屯の奉天兵反亂し團長を射殺し軍費を掠奪す

九月十三日　奉天張宗昌の邸宅に對し突如手入し家宅搜査を行ふ

九月十三日　奉天附屬地にて拳銃取引に際し邦人夫妻馬賊に慘殺され加害者直ちに逮捕さる

九月十四日　奉海滿鐵の聯絡十月一日より正式に復活すべく準備を了す

九月十四日　哈爾賓大北新報に支那人强賊闖入す

九月十七日　張宗昌奉天派に宣戰を布告し奉天城に戒嚴令布かる

九月十八日　張宗昌の一味東三省內の馬賊と聯絡し奉天、吉林、黑龍江の三省の交通遮斷をなさんとした陰謀發覺五十餘名哈爾賓にて逮捕さる

九月廿一日　奉天靑葉町にて怪支那人我巡査を負傷せしむ

九月廿一日　馬賊五十名鳳凰城附近を襲擊掠奪す

九月廿四日　張宗昌の直魯聯軍武裝解除三萬に達し張宗昌は行方不明となる

九月三十日　時局以來奉天に集中されて居た各地よりの日本軍は時局一段落の爲め原駐地に引揚を行ふ

九月三十日　張學良奉天小河沿に日佛競技に參加せる日本選手を招待し競技に國境なしと演說す

十月一日　奉海滿鐵の聯絡實施さる

十月二日　治安維持のため駐奉中なりし關東軍司令部は禮砲裡に奉天を引揚ぐ

十月二日　東支鐵沿線の馬賊中永好、明交等東三省の騷擾を計畫す

十月二日　煙臺炭坑爆破慘死者四十六名を出す
十月四日　吉林にて鮮人壓迫依然續行さる
十月初旬　呼倫貝爾問題解決し郭道爾奉天派の顧問となる
十月初旬　柳河縣の邦人に對する壓迫甚だしく堀畑仙次郎支那官憲より立退きを命ぜらる
十月八日　張學良國民政府委員に任命さる
十月十日　普蘭店、瓦房店一帶に匪賊來襲し普蘭店警察並びに守備隊出動四時間の交戰を行ひ我警官一名即死す
十月十一日　張作昌等旅順に亡命し來る
十月十五日　滿蒙鐵道問題我政府滿鐵、東三省當局の間に交渉開始され當面の重大問題として延山（延吉三姓間）吉五（吉林五常間）長大（長春大寶間）の三鐵道重視され、滿鐵の二線二港主義（吉會線の延長と打通線の交換たる長大線の延長）に則して之が解決を期せんとす
十月中旬　十二日以來柳河、金川方面にて大刀會匪と馬賊團聯合軍七百名横行掠奪す
十月十八日　馬賊東江の一團八道溝方面を襲擊す
十月二十日　日支鐵道交渉は合辦主義より聯絡主義を採り日本側讓歩して交渉を開始す

十月廿二日　吉會鐵道敷設に關して吉林方面に反對運動起り延吉、琿春、汪清、和龍の各縣では農商工聯合大會を開く
十月廿四日　高松宮殿下御來奉遊ばさる
十月廿六日　京奉線十一月一日より正式開通に決す
十月廿八日　安奉線にて線路妨害事件頻出し廿七日鳳凰城附近にて貨物列車進行に際し五十餘斤の石を置きしを發見又廿八日同所附近にて石塊八個を發見附近民家より嫌疑者を引致す
十月廿八日　鷄冠山附近に馬賊海交の一味來襲し、又長白縣八道溝方面にて天下好の部下二百名横行掠奪を行ふ
十月廿九日　奉天保安總司令部鄒作華を督溪とし興安嶺附近の開墾を計畫し荒地開墾の計畫を樹立す
劉房子驛附近にて線路巡査兵三名巡察中慘死を遂ぐ
十月卅一日　奉天軍兵士奉天日吉町附近にて拔劍し馬車徵發を行ひ我警察署員の爲め逮捕さる
十一月四日　鴨綠江上流にて我郵便船高瀨丸他四雙に對して馬賊討伐の官兵一齊に發砲安東領事より抗議す

十一月四日　南北安協準備の爲め東省政治研究會設置せられ張學良會長に就任す
十一月四日　東支鐵道（陶賴昭附近）にて馬賊列車に乗込護衛兵二名を射殺掠奪す
十一月八日　吉林の學生易幟を實行すべしとして示威運動を擧行す
十一月丸日　開原警察署の安樂巡察馬賊の爲め射殺さる
十一月九日　吉林學生團鐵道反對運動にて亂暴す
十一月九日　奉天省城にて吉會線反對と排日貨の宣傳ビラ撒布せらる
十一月十日　京都にて御大典行はる
十一月十三日　滿洲木材同業組合會は木材關稅の改正を好機として滿洲特有樹種の關稅免除運動起る
十一月中旬　臨江、金川縣、中東線方面にて大刀會の馬賊頻りにて今後の行動注目さる
十一月十七日　奉天商務總會及工務會を主體とせる民間有志東三省國民外交を組織し東三省の外交應援を圖る事となる
十一月廿三日　東三省の學生運動漸く熾烈化せんとし傳單配布運動者派遣等頻りに行はる
十一月廿六日　本溪湖にて高木巡査馬賊に射殺さる
十一月廿九日　奉天省城にて左傾學生四十名檢擧せらる
十二月三日　東三省保安總司令部祕書陶尙明支那官憲の爲め引致され家宅搜査さる
奉天省長金融維持會を開催し東三省官銀號にて現大洋票を發行すべき事を協議す
十二月五日　趙欣伯大連に遁れ六日歸奉して法治主義を說く
十二月九日　奉天省の商民稅金問題で官憲に反抗し紛糾を續く
十二月十日　昂々溪齊々哈爾間クロス延長線愈よ竣工開通式擧行さる
十二月十二日　鐵西に馬賊來襲守備隊出動す
十二月十三日　東三省交通委員會にて錦州、熱河間（七百淸里）の鐵道計畫をなし建設費四百萬元を計上す
又奉天法庫門間に資本現大洋三千萬元にて鐵道敷設を計畫す
十二月中旬　國民政府東三省の外交權引渡を迫り來る
十二月十七日　北陵御花園の鮮農馬賊に襲はる同方面は十一月末來五件の多きに達し日本側より警告す
十二月十八日　奉天省城の商民新稅金に對して省長公署に赴き膝詰談判を行ふ

十二月十八日　新税金に反對し奉天省城民示威運動を行ひ反官運動を行ふ

十二月　奉天省政府復州の無煙炭礦を買收し利權確保の實際運動に着手す

十二月廿一日　床次竹次郎氏來奉奉天派要人と會見す

十二月廿二日　奉天省城商民との問題妥協案成立し解決す

十二月廿二日　奉天財政廳では二、五附加税を日本商人から徹底的に徴税する爲め此の程交渉署に對し日本總領事へ直に通告する樣命じた

十二月廿四日　東三省の政治改組に關して奉天派當局國民政府に東三省の自治を許されたしと要求す

十　月廿五日　奉天省議會を取消して奉天にも省黨部を設置する事となり協議す

省議取消問題三派に分れて論判し又一部の間には五色旗擁護論起り黃色宣傳ビラ撒布さる

十二月廿七日　獨立守備隊管下に於ける鐵道事故は左の如し

	今年	前年
第一管區	二二	二七
第二管區	一九	一四
第三管區	一二	六
第四管區	二三	一〇

電線の被害

第一管區	一	五
第二管區	一三	一六
第三管區	二	三
第四管區	五	三

十二月廿八日　愈ゝ東三省の政治組織改變に關し奉天城頭に青天白日旗揭出決す

省議會を廢し省政府六廳、民政、建設、財政、工商、農工、教育を置くに決す

十二月廿九日　奉天附屬地に馬賊來襲巡捕重傷を負ふ

奉天省城に青天白日旗翻り易幟攷制實行の旨を報告す

十二月三十日　奉天附屬地にて八名の馬賊旅館止宿中逮捕さる

公主嶺にて十數名の馬賊糧棧に闖入し現大洋五千元を掠奪す

八、民國十八年一ヶ年間

一九二九年（昭和四年　民國十八年）—露支衝突事變

一月三日　南京政府より國民黨指導員來奉當分東三省の政情監視をなすこととなる

鴨綠江上流通化方面にて馬賊平衡六七千名横行掠奪す

一月五日　錦州に在る東北軍は遼河流域の馬賊團を全部改編し兵器彈藥を支給し統制ある策動を行ひつつあるため我軍自衛上對應の決心をなす

一月七日　張學良東北邊防軍司令長官に特任し張作相萬福麟東北軍々司令に就任

一月八日　奉天市政公所市政局と改稱す

一月九日　三鐵道（滿鐵、中東、中國）鐵道會議哈爾賓にて開催さる

一月九日　張學良東三省保安員長に就任す

一月十日　東三省の政治變革と共に大洋票を發行孫文大洋票に改む

熱河にて奉天軍掠奪を行ふ

張學良は楊宇霆、常陰槐を自邸に招き之を射殺す　楊宇霆、常陰槐の東三省獨立運動察知したるを爲めなりと傳ふ

一月十一日　東三省交渉委員會哈爾賓に郵便小包分署を新設し從來海關で徴收せる小包を十一日より海關と共同管理する事となり稅率も値上さる、八木哈爾賓總領事は直に抗議す

二月一日から實施の新稅率奉天海關より布告さる

一月十三日　從來間島にて鮮人の支那に歸化入籍せるものは懇民と稱せられ本國人たる支那人と區別し實際上の權利行使を與へなかつたが今回吉林省長は之等歸化鮮人に對して同樣の權利を行使せしむる事に決定し通牒を發した

鴨綠江上流の馬賊上山好、鐵雷等の頭目部下に殺さる

一月十三日　楊宇霆の陰謀事件に關し城內の空氣緊張し流言蜚語旺んに傳へらる

奉天附屬地內に五人組馬賊襲來す

一月十四日　拘禁中なりし陶尙明、安祥釋放さる

一月十四日　東北政務委員正式に任命張學良、張作相、萬福麟、湯玉麟、翟文選、張景惠、劉尙淸劉哲莫、德惠、袁世凱、王樹翰、沈鴻烈、方本仁

一月十五日　國民黨省政府の實際事務十五日から正式に執務さる

奉天派官憲延吉局子街にて新聞社を包圍幹部を捉ふ

一月十八日　張學良は楊常兩氏の處刑に就き彼等が皇姑屯にて張作霖を爆死せしめたる事蒙古王等と謀りて反逆を企てたる事を發表した

一月十九日　楊宇霆常陰槐の陰謀事件兵器を密造して黑龍蒙古に據らんとせしものなりと張學良より發表す

奉天海關にて二月一日より新關稅々率實施の旨布告す

一月廿一日　滿鐵の鞍山製鋼計畫具體化し來る

一月廿四日　東北自衞團の名にて東三省の人民は太平の民たるを願ふ旨傳單配布さる

一月廿五日　安奉沿線回收運動なるもの發現す、國民政府の利權回收による策動認めらる

一月廿六日　支那側にて全滿に亙り共產黨狩りを實行數十名を逮捕す

煙臺炭坑爆發す

一月廿六日　二月一日より實施の新稅率の施行細則に就き總稅務司より大連海關に左の通牒來るに入選手續を完了せるものには舊稅率を適用す

子口半稅は新稅率實施後に於ても從前の如く舊稅率を適用すべき事

一月廿八日　奉天に於て張學良の爲め銃殺されたる楊宇霆常陰槐兩名の銃殺事件の調査報告（北平警備司令部諸識張廼良の報告）北平にて發表さる、內容左の如し

一、日本の山東出兵は國民軍前進阻止の爲め楊宇霆常陰槐兩人の斡旋に依るものにして滿蒙利權及奉天派の勢力範圍內雜居權承認を交換條件となせり

二、張作霖歿後、楊宇霆常陰槐兩人は更に一歩を進めて芳澤公使及赤塚總領事と密使を往來し奉天、吉林、黑龍江、熱河、內蒙古を大遼東共和國として獨立せしめ軍事期間中張學良を大元帥に楊宇霆を副元帥となし次で軍事終了せば楊常を以て正副元帥となす之が實現に關する協定調印迄楊常は支那統一及改旗阻止の全責任を負ふとの密約を締結せり

三、楊常兩人は日本より大砲其他多數の武器を購入せり

四、日本は楊常を援助の爲め第十九師團の一部を錦州朝陽一帶に派遣するを約す

一月廿九日　張作霖爆死事件議會の問題重大視さる

一月三十日　日支關稅協定樞府會議にて決定さる

二月一日　國民政府新稅率適用に際して輸出稅增徵の通告を發し來り滿洲各海關にて之が適用を行はんとして反對を受く

二月四日　張學良、張作相　萬福麟三氏の外東北四省政府首席委員の就任式は四日奉天省政府公署に於て行はる

二月五日　芳澤公使王正廷間に濟南事件解決を告ぐ南京にて右調印行はる

二月五日　奉天省を遼寧省と改む

奉天總領事館當局も國民政府の新稅率適用に關し監視し、且つ輸出稅增徵は大連稅關協定違反なりとして奉天官憲に强硬抗議す

二月十九日　新城子に六十名の馬賊來襲豪農を襲ひ人質を拉去す

二月十九日　張宗昌蹶起し山東に向ひ各界に迫害を發す

二月廿　日　四洮鐵路局長は事務工務會計の各處に支那人副處長を置き日本人處長と同格で執務せしめ日本人處長の借款契約上の權限を侵害し以て支那側にて之を回收せんと謀りつゝあるので滿鐵は正式に抗議を行ふ

二月廿四日　奉天城內に種々流言傳へられ警戒を嚴にして備ふ

二月下旬　奉天大安煙の職工二百名營口工場と聯絡して賃銀値上を要求す

二月　林奉天總領事より張學良に致せし輸出附加稅に關する抗議に回答來り責任を國民政府當路に轉じ來れるが、林總領事は更に抗議す

二月下旬　奉天商議にて國民政府の新稅たる陸境稅輸出稅に關して審議し政府當路に其の不當なるを要望す

三月七日　三月六日大連を發し龍口に向ひし我汽船高松丸は七日登州着に際して東北艦隊の定海の爲め臨檢せられ且支那人乘客を拉致せんとし總領事館より嚴重抗議す

三月八日　全滿商議聯合會安東にて開催さる

三月十一日　營口東北五里の地點にある馬家堡の鮮人五十九名突然支那官憲より立退きを命ぜられ我領事館より抗議す

三月十七日　敎化在住の邦人西澤旅館に對して營業立退强制を命じ來り且つ館主を拘禁するの不法事件起る

三月十九日　間島各縣の支那當局鮮農の歸化入籍に對し突如制限令を發し鮮人排斥の態度に出づ

三月廿二日　哈爾賓に於ける支那官憲同地を商埠地に非ずとして外國人の居住權を脅かす態度に出でたので領事館は行政官長張景惠に條約を指示して抗議した

三月廿四日　奉天附屬地加茂町と十間房の滿鐵附屬地に對し支那側は商埠地なるを主張し石柱や樹

て我領有權無視の態度に出づ

三月廿六日　煙臺炭礦採炭所員支那官憲に包圍を受け暴行さる

三月　奉天瀋陽縣下にて東亞勸業會社が支那人李雲飛より土地十五町歩金一萬圓にて商租したる奉天省政府は委員會の決議を以て右地主を死刑に處すと威嚇す

四月四日　支那側の不當課税と營業妨害のため奉天商議其の非を鳴らす

四月七日　高松宮殿下御來遊遊ばさる

四月七日　洮南は民國三年一月八日の大總統令を以て開放を宣布した所謂自開港市場なるにも拘らず支那官憲の壓迫甚しく洮南公安局長は張學良の命と稱して同地方に於て日本人に土地家屋の貸與賣却を禁じた

四月十日　京奉線列車内に打倒帝國主義と誌した宣傳ビラを張り日本婦人慘殺の計畫や不穩文書を貼布の怪列車到着問題となる

四月十日　他山驛附近にて二十四斤の石を横へ列車の妨害を企圖せるを發見我守備隊出動の上犯人の嚴探をなす

洮南大通旅館（日本人經營）は借家期限滿了せりとの理由で支那官憲は同日營業停止を命じ來る、

此の種の邦人壓迫は頻々として繰り返さる

四月十一日　鮮人に對する壓迫通化に於て依然として繼續され鮮人子弟の鮮人學校への通學を禁じ支那側の學校へ入學せしめよと强要す

四月二十日　京奉鐵道北寧鐵道と改稱さる

四月二十日　奉天支那税捐局は奉天城内の日本人商人に對し自今商品搬入に際しては邦貨と雖も支那商品と同樣各邊門にて檢査の上課税すと布告し來り、四月二十日扇利洋行及岡田洋行の商品を小西邊門より搬入せんとしたるに税捐局員に依り搬入を阻止され邦商は領事を經て交渉し漸く釋放さる

又奉天高橋洋行の商品（コールター）を城内に搬入せんとせるに對し支那税捐局員は脱税品と稱して之を沒收した

四月廿一日　在奉天邦商福田洋行（ビール雜貨）柏田洋行（雜貨）大信洋行（眞鍮類）柏林商會（材木）等の商品は小西邊門通過の際支那巡警に依り阻止又は拉致せられ我官憲の出張交渉に依りて漸く商品を取戻す

四月廿二日　在奉天邦商東洋綿花（棉糸）西尾洋行（雜貨）茂林商會（陶器）高橋洋行（布類）は

小西邊門及東門の巡警に搬入を阻止せられ警官の交渉に依り通過するを得たり

四月廿三日　奉天省政府は教育權回收研究會を組織し委員五名を選任す

四月廿四日　在奉天の邦商寶信洋行は其商品（電氣材料）を皇姑屯驛より遼陽方面へ積出さんとせしが稅捐局員によりて阻止せられ納稅の有無に關せず積込許可を命ぜられし爲め領事館を經て交渉解決した

四月廿五日　吉林方面にて吉林學生の護路運動起り排日氣勢を揚ぐ

支那側は奉天北陵に於ける榊原政雄の農園を横切り鐵道布設工事を初めたる爲め三月十一日奉天總領事は該工事の中止布設軌條の撤廢を抗議せしめたが、支那側何等反省せず林總領事更に交渉す

四月廿六日　在奉天の邦商西尾洋行にて商品（護謨靴）數梱を支那商人に賣買せしに張込中の稅捐局員により邦商の店前にて納稅未納品なりと稱して沒收せられたるも我領事より交渉し解決した

四月廿九日　九鬼洋行、久保洋行にて支那人が邦貨を購入せんとしたるに支那稅捐局員に依り購入品に納稅を迫られた彼等は購買を止む

五月一日　日支通商條約廢棄通告善後措置の覺書發表さる

五月二日　支那稅捐局員は四月末以來邦商、昌和洋行（雜貨）附近に張込支那人が邦貨を購入せんとすると之を拉致し又は脫稅品であると曲辯して邦貨を沒收する等の手段にて營業を妨害し我領事は嚴重なる抗議をした

五月二日　張宗昌失脚し關東州內に逃れんとしたが上陸を拒絕され日本內地へ亡命す

五月三日　奉天商議支那官憲の營業妨害に關して陳情す

五人組馬賊奉天鐵西を襲ひ多數の金品を奪つて逃走す

支那側官憲の邦商品營業妨害問題に關して內田奉天領事支那側に抗議す

五月四日　民國政府民國十九年（昭和五年）一月一日より治外法權の撤去を聲明す

五月五日　支那側頭道溝市街英人經營の崇德學校に對して支那縣立學校へ編入を命ず支那官憲柳河の鮮人學校協昌校に對し閉鎖を嚴命す

五月七日　濟南城內の接收五日無事終了す

五月八日　奉天の銷場稅問題遂に日貨排斥に轉化の形勢を示し成行重大視さる

五月十一日　奉天公太堡の勸業公司に於て支那の暴民約百七十名勸業公司農場の播種作業を妨害し我警官を包圍して亂暴重輕傷者を出すに至り我警察官二十三名急行す

奉天官憲の排貨に關して各團體代表林總領事に宛て陳情を行ふ

五月十一日　山東派遣軍撤退に着手す

五月十二日　支那側にて鐵道問題交渉を題目に排日講演會を開催す又十二日國民教育大會を開催し排日を唱導省城各團體の出席者二千名を算し排日氣勢を揚ぐ

五月十三日　西公太堡勸業公司支那農民の暴動事件は支那巡長の煽動原因し居る事判明す同事件にて負傷せるもの警官三名邦人八名に達し何れも重傷を負ふ林總領事嚴重抗議す

五月十四日　吉海線問題に關して張學良通電を發し日本の交渉を相手にするなと說く

撫順の鮮人農民組合にて水溝築造中支那農民堤防を破壞して衝突を行ひ鮮人を壓迫す

五月十五日　支那側の利權回收熱漸く烈く種々計畫を行ふ模樣あり、成行重大視せらる

西公太堡事件にて日本警官隊と支那側軍隊と相對峙し支那側より警官の撤退を要求し來れるも日本當局は之を拒絕す

五月十六日　長春附屬地に馬賊來襲し賊滿鐵病院に逃込み看護婦附添婦に拳銃を發射し負傷せしむ

五月十七日　公太堡事件一段落靜穩に歸す

五月十八日　奉天十間房にて鮮人金良鐸納稅濟の煙草（英米トラスト製品三百圓分）を運送中稅捐局員之を押收し且つ拔取りの不法をなし總領事より抗議す

五月中旬　問題となりし滿蒙四鐵道借款豫備契約の規定を一方的蹂躙し支那側は吉海線を任意に敷設せしが五月遂に完成を見るに至り、然も其の反面排外的態度濃厚にて昭和三年五月交通部との間に締結したる長大線敦會線は滿鐵側にて工事に着手せんとしたるも支那側は未だ時機に非らずと稱して阻止す

滿蒙鐵道交渉問題愈ゝ交渉開始を傳ふ當時に在りて日本側（滿鐵）對支那側の鐵道に關する懸案として列擧されたる事項左の如し

(一)洮昂鐵路借款契約附屬往復文書に違反し支那側は滿鐵派遣の洮昂鐵路顧問に對し規定の權限を附與せざりし事

(二)支那側は吉敦建設請負契約になし吉敦會計主任に日本人を傭聘せずして支那人を任命して今日に及べり

(三)昭和三年九月調印を了したる滿鐵及び四洮兩鐵路間の連絡運輸契約に基き之と不可分の關係を有する滿鐵經由朝鮮四洮貨物連絡運輸契約の改訂に應ぜず

(四)吉敦線（昭和三年十月完成）工事金二千四百萬圓洮昂線（昭和二年六月完成）工事費金一千

五月二十日　鐵嶺にて奉天票暴落に爲め學校教員の給料値上を要求し一齊に罷業を斷行す

長春方面の支那學生祕密會議を開き日貨排斥實施の協議をなし日本商品ボイコットの決議をなす

五月二十日　東三省に於ける外人關係の鑛山の回收に關して調査を開始す

五月廿二日　哈爾賓國民救國會日本の滿蒙侵略吉會線反線のビラ撒布し市民大會を開いて示威運動を行ふ

五月廿三日　南京政府の決議にて愈ゝ討馮令發せらる

五月廿三日　奉天北陵榊原農場内に支那側北陵遊覽鐵道を無斷にて敷設したるため問題となり日本側より抗議せるに支那側は同時に商租權を否認し日本側の要求に應ぜず且つ二十三日支那側交涉署員奉天總領事を訪問して榊原の土地商租を認めずと鐵道の撤去を拒絶するに至つた

五月廿四日　支那側の國權回收熱漸く潛勢力を占め滿鐵經營の公學堂に入學せる兒童は漸次支那側の學校に轉じ其の數著しく減ず　山東にて事を擧げ失敗せる張作昌の敗慘兵四百鴨綠江下流に上陸せんとし我官憲之を禁止す

龍口附近にて支那軍艦海鵬（東北艦隊附）日本の漁夫を拉去したる事件起りし爲め我漁船監視船遼海丸之れが交涉に赴きし處支那艦は右遼海丸に對して發砲した事件起る

五月廿五日　奉天鐵西にて數名の巡警（支那）我軍隊を狙擊す奉天總領事嚴重抗議す

五月廿六日、奉天柳條溝東方にて鮮人に對する支那官兵の暴行事件惹起され同所分遣所の小山軍曹取鎭めに向ひたるに群衆投石し眉間に負傷を受け且つ鮮人農夫（勸業公司員）は金品七十圓を强奪され我總領事嚴重抗議した。

五月廿七日　哈爾賓にて露國領事館員廿九名共產黨陰謀のため支那官憲に逮捕され重要書類押收される

五月廿八日　支那側の鮮人壓迫小事件頻出し壓迫日に日に募る我總領事一括して交涉する處あつた

五月廿九日　柳條溝に於ける軍人負傷事件支那側我守備隊を訪問し謝罪す

五月下旬　哈爾賓に於ける北滿電氣に對する壓迫著しきを加へ來り大正九年哈爾賓市會に於ける我北滿電氣に對し電車電燈經營の特許權附與の問題起れる際利權の外溢を防止する爲め官商合併にて急造したる哈爾賓電業公司を純然たる官營に變更すると共に他方北滿電氣に關しては官營事業に關する主權の侵害なりとして其の擴張に凡ゆる壓迫を加ふ

六月一日　滿鐵鞍山製鐵所の獨立と滿鮮各鐵所の合同を策す

六月一日　琿春縣にて臨時防穀會により九月迄穀類の外國輸出を禁ず
六月五日　遼寧省にて奉票救濟の一助として中國、交通、邊業、東三省の各銀行聯絡して現大洋票換紙幣の發行を企圖す
鴨綠江上流にて馬賊十餘名子供二名を拉去す
六月七日　奉天省長奉票暴落に關し錢鈔取引人に對し壓迫を加ふ
六月八日　哈爾賓の露國總領事館搜査事件は奉天派官憲が獨斷で手入したものなる事件判明す
六月九日　支那側の鐵道漸く滿鐵と競爭態度に出でんとし、京奉、奉海、圖洮、洮昂の四鐵路會議、吉海、奉海兩鐵路會議を開き滿鐵對抗策を協議し運賃を低減し旅客貨物の吸收策に腐心す、山海關にて日支兵衝突し我兵一名負傷す
六月十日　奉天派遣軍石家莊に派兵馮派に對抗す
六月十一日　奉天春日町宇治商店員石炭代催促のことから支那巡警十數名に威嚇され店員傷き總領事館當局より交渉す
山海關の日支兵衝突事件責任者を處罰して解決す
六月十三日　本溪湖石炭公司の苦力奉票暴落の爲め增賃を要求して全部罷業す
安奉線鳳凰城高麗門間にて線路上に小石を積めるを發見又橋頭宮間にても同樣の妨害事件を發見す
六月十五日　張學良東北邊防軍司令長官公署にて東北巨頭を召集して時局會議を開催し露支國境警備問題を協議す
馬賊三十名千山龍泉寺に立籠り討伐隊出動す
六月十五日　大連奉天長春哈爾賓の各商工會議所より國民政府提案の治外法權撤廢に關し尙早とする陳情を行ふ
六月十五日　奉天撫順間にて列車に投石するものあり少女負傷す
六月十六日　對露方針に關する奉天派の態度決定し共產黨宣傳は飽迄取締るに決す
六月中旬　支那側反日會を國民廢約促進會と改め依然排日貨を實行すべく奉天總商會に南京より通告し來る
六月十七日　奉天省城に於て錢莊壓迫猛烈を加へ劉省長金票兩替及び日本電話の使用を絕對禁止す
六月十八日　奉天窯業會社にて奉天票暴落の爲め賃銀値上問題起り罷業行はれしも會社側要求に應じ解決す

六月十八日　安奉線一帶馬賊跳梁し頭目西來好は屢〻官兵と對戰す支那側東邊警備軍を編成して討伐に當る

六月中旬　王正廷芳澤公使間にて日支通商條約改正の準備に移らんとし支那側の鼻息極めて荒し

六月十九日　安奉線通遠堡に馬賊現れ我守備隊出動す馬賊少年を人質として拉去す

六月十九日　支那學堂の排日惡化振り甚だしく邦人子女を愚弄し鮮人通學兒童の學用品を奪ふ等の事件起る

六月二十日　安奉線草家口に馬賊來襲し我守備隊嚴重警戒す

六月二十日　安奉線鷄冠山附近の馬賊附屬地を襲擊せんと策動し連山關守備隊出動して討伐す

六月廿一日　日滿連絡飛行本日より開始さる

六月廿二日　奉天大西關にて支那巡警張萬良拔刀して朝鮮料理店に闖入し鮮人婦人を毆打し亂暴せる爲め奉天總領事より抗議す

六月廿四日　奉天西公太堡附近の後尖山子の鮮人四戸十三名支那巡警に强制的に追出され巡警等鮮人の家具を屋外に放り出して去り我領事館警察に保護を願ひ出づ

奉天省政府奉票釣上げに腐心し奉大洋五十元は現大洋一元の換算率を公定强制し違反者に對しては嚴罰する旨を公表す

六月廿七日　奉天北陵に榊原政雄が適法に依り土地を商租して經營せる水田地域內に支那側は大正十四年皇姑屯より三臺子に至る京奉鐵道支線を無斷敷設し之に對する日本側の抗議に對しては聊かも耳を藉さず六年四月には隣接地に北陵停車場を建設し同農場內に回避線を引込み二重に權利の侵害をなしたるに關し我總領事館は再三支那側に抗議したるに拘らず何等誠意を示さず之が爲め榊原氏は自己の正當なる權益を確保するため二十七日拂曉自ら工夫二十餘名を引連れ同農場地域にある有蓋貨車ポイント小屋並に軌條を押出し榊原農場と記した立札を建てた尙總領事館は支那側に警告し再び線路敷設を阻止すべきを命じた

六月廿八日　榊原農場問題に關し支那側二十八日我總領事館に對して逆抗議を提出し來り榊原の處分を要求して來たが總領事館當局は反駁を加へ要求を拒絕した

東鐵利權回收に氣を强くした支那官憲日本權益に其の餘波を及ぼし興安嶺の札免公司を回收すべく附近暴民を使嗾し二十七日支那巡警數十名來りて威嚇し哈爾賓八木總領事は武裝警官を送りて對峙す

六月廿九日　奉天會議の結果支那側は東鐵回收の歩を進め管理局長の權限を縮小して支那側副管理

局長の勢力を增大する事となる

六月廿九日　滿洲某重大事件に關し責任者處罰左の如く行はる

命停職　　陸軍歩兵大佐　河本大作

命重謹慎　　陸軍中將　齋藤恒

命重謹慎　　陸軍少將　水町武二

七月初旬　呼海線道開通す

七月一日　新任關東軍司令官畑中將任命さる

七月一日　滿洲某重大事件責任者左の如く處罰さる

豫備役仰付　　關東軍司令官　村岡長太郎

七月一日　蘇家屯附近にて奉天營口遼陽本湖の電話線二十六對切らる

奉天北方柳條溝陸橋附近線路上に石塊數個を並べ列車の妨害を圖りたるを我守備兵發見犯人趙寶陞を逮捕し領事館より支那側に引渡す

七月　日　松花江下流三姓は條約上の商埠地であるが同地居住邦人穀物商小川澄に對し支那稅捐局は銷場稅斗納稅入を强要す

七月二日　田中內閣は臨時閣議の結果總辭職を決し二日午前十時首相參內辭表を捧呈す

七月二日　滿洲にて支那側の排日教材を拾集し之を世界に公表して支那の國際的非違を糾彈せんと圖る

七月五日　哈爾賓道裡斜紋街新舞臺にて木下曲馬團は營業稅警察稅其他合計全收入の四割に該當する不當稅金を强制徵發さる

七月五日　張學良閻錫山の外遊引留の爲め北平に向ふ

七月五日　榊原農場問題に關して支那側排日策動を開始す

滿鐵本線南台、湯崗子附近に馬賊六十名來襲し大石橋守備隊より守備兵出動交戰す、遼寧民家抗路外交後援會なるもの杜重遠外十名により組織され榊原農場問題等に關して運動を行ふこととなる會名を新に東北外交協會と稱す

七月七日　撫順炭礦員四名千山登山の際馬賊三十名に襲はれ掠奪さる

七月八日　東北外交協會今後の運動方法を議し旅大回收、國貨提唱、經濟斷交、二十一條否認の諸問題に關して協議した

七月十一日　東支鐵道の回收行はれ東鐵沿線の露人百七十餘名哈市から續々追放さる

七月十二日　邦人の關係せる大石橋昔子、滑石鑛區は支那側に於て日本人關係せりとの理由に支那人を壓迫し來るが遂に苦力の從業を阻止して之を沒收せり

日支通商條約の改正に伴ひ治外法權撤廢と商租及雜居權問題論議され滿洲に於ける日支關係重視せらる

奉天哈利洋行が板硝子を城內に搬入せんとするに支那側稅捐局員該品を押收せんとし總領事館警察署から警官出向き右品を取戻した

七月中旬　黑龍江省興安嶺の林區を有する札免公司に對する支那側の態度愈〻强硬態度に出る。札免公司は滿鐵より金　百萬圓を出資しあるに支那側は右出資の事實を否認し滿鐵に對し更に巨額の出資を要求し大正十四年の滿鐵黑龍江省間の札免林區善後辦法を履行せず且實力を以て其の事業を妨害す

七月十三日　長春附屬地に於て滿鐵衞生係池田權四郎衞生業務に從事中數十名の支那兵に毆打され金時計を掠奪さる

七月十四日　滿露問題で滿洲里の支那軍隊續々國境に向け出動す赤露軍八萬國境に集中さる

七月十四日　中東鐵道問題に露國激昂し支那に對し最後通牒を發すると共に駐東軍隊にて對抗するに決す

七月十八日　支那側に於て滿鐵回收論行はる

七月十八日　露西亞遂に露支國交　絶斷を宣言す

七月十八日　在奉勞農領事家族を引纏めて大連經由引揚ぐ

七月十九日　ボクラニチナヤにて露支愈〻兵火を交ゆ滿洲里附近にては支那兵赤衞軍の爲め掃蕩さる

七月中旬　撫順炭礦の轉覆を策したる中國共產黨事件發覺檢擧さる

七月廿一日　北平に赴いて居た張學良歸奉す

七月廿二日　奉天十間房の邦人工場に支那憲兵二十餘名亂入し家宅搜査をなし婦女子を脅して問題を惹起す

七月廿三日　東支鐵道從事員四十二名總辭職を煽動せる廉で支那官憲に捕はる哈爾賓にても逮捕者續出して三百名以上に達す

八月廿五日　勞農軍對支那軍滿洲里國境に砲戰を開始し露國飛行機旺んに飛ぶ

安東日支境界附近の大和橋警官派出所にて支那警察官と群衆が交通整理中の我警官を包圍毆打し捕繩をかけて引致す

七月廿八日　時局に鑑み滿洲獨立守備隊二大隊增設に決定し昭和六年十二月より鐵嶺鞍山の二地に設定するに決す

七月廿八日　自動式電話奉天に開通す

七月廿九日　久しく日支間の懸案とされた奉天陸軍擊爭地は遼寧交涉署長王鏡寰と林總領事會見滿鐵附屬地に編入し警察權も日本側が行ふ事となつた

八月一日　奉天城內外に共產主義宣傳ビラを撒布したる中國共產黨員十七種のビラを所持し新市街潛行中奉天驛前で我警察の手に檢擧さる

滿鐵本線楊木林西北に二十名の馬賊來襲し我公主嶺守備隊出動し警戒に任ず

八月二日　遼陽附近に馬賊三十名現はれ煙台炭鑛附近の支那部落を襲ひ討伐隊出動す

八月三日　安奉線通遠堡驛を距る約八里靑城子に在る久原鑛山（日支合辦靑城子沿鑛公司）に對して支那官憲は鑛業取消の通知を爲すと共に作業妨害し從事中の日本人に退去を强要し又車馬夫を拘禁し馬匹の沒收をなし遂に該鑛は作業を中止するの止むを得ざるに至つた

又本溪湖石炭鑛區は日本人が從來十數年來支那人と石灰石の採掘契約をなし平穩公然に營業し來れるに對し支那側は該關係支那人を國土盜賣ありとし之を投獄し其の土地を沒收し八月以來武力を以て屢ゝ回收を圖る

八月三日　七月廿五日安東にて發現せる我警察官の拘禁事件支那側謝罪の意を表す

八月四日　奉天に於ける支那側國民外交協會より滿洲に於ける日本の遣り方に關して中央へ進達し左の四項に關して對日交涉開始を電請した

一、日本側の遼寧省管內に於ける强制商租土地水田經營に就き勝手に河川工事を爲し支那商民の交通上不便を來せる件

二、榊原の北寧鐵路支線破壞に關する件

三、日本鐵道守備隊が屢ゝ南滿安奉鐵道沿線に於いて支那農民等を鐵道妨害犯として射殺せる件

四、遼寧省城輸入日貨銷場稅統一の件

八月六日　雙廟子駐屯の我守備兵四名鐵道巡察の爲め桓溝子驛に至る間の鐵橋に差懸りしに二十餘名の馬賊現れ我守備兵に對し一齊射擊をなし我守備兵藤田一等卒戰死し賊の爲め銃と彈丸を奪取さる

八月七日　關東長官に太田政弘氏任命さる木下關東長官辭任す

八月七日　東支鐵方面共產黨員の潛行運動開始され鐵道破壞電話線の切斷等頻りに行はる

八月九日　撫順線孤家子守備隊の守備兵四名楡樹台孤家子間の線路巡視中三十名の馬賊と衝突し一時間に亙る交戰を續け大島上等兵賊彈を受け重傷を負ふ

奉天千代田通に支那人强盜來襲し支那質屋大祥當方を襲ひ奉天警察は非常召集して警戒した

八月九日　撫順楊家台に二十餘名の馬賊團來襲し人質を拉去し掠奪し去る

八月十一日　四洮線錢家店通遼間の木橋馬賊の爲め燒拂はる

八月十三日　滿鐵總裁の後任として仙石貢氏副總裁大平駒槌氏に決定す

八月十四日　露支間の交涉停頓し支那側は更に奉吉の軍隊を國境に增派し國境警備を嚴にす

八月十　日　守備兵射殺の馬賊六十餘雙廟子附近に出現し四平街より五十名の討伐隊出動す

八月中旬　吉林省並に奉天省では東北政務委員會より國土盜賣懲罰の命令に接し違反者は死刑で取締り殊に鮮人に對して懲罰を嚴にすることとなつたが同令の內容は左の如し

(イ)奉天省政府は大正四年の南滿洲及內蒙古に對する條約を無視し南滿洲に於ける日本人の商工業及農業經營の爲め商租權を妨害する目的を以て昭和四年七月懲治盜賣國土暫行條例を制定して管內各地方官に密令し外國人に對する土地の抵當租與を嚴禁し之に違反するものを死刑又は無期徒刑其他罰金に處する事とす例へば昭和四年三月瀋陽縣門台子に於て東亞勸業會社が支那人李雲飛より土地二十四點地を金壹萬圓にて商租したるに遼寧省政府は委員會の決議を以て地主を死刑に處すべしと脅迫す

(ロ)吉林省に於ては間島協約に依る鮮人の土地所有權を無視し又其他吉林省各地に於ける鮮人の土地買收を不可能ならしめたるのみならず其の小作契約の期限等に付ても干涉す

八月十六日　奉天公和橋北方街道附近にて支那巡警二名鮮人に向ひて發砲し且鮮人を拘引警察權の侵害問題を起す

八月十六日　安東附屬地支那部落云道溝に馬賊來襲　支那人に負傷せしめて遁る安東警察署より警察隊出動す

八月十七日　朝鮮總督に齋藤實子受諾す

八月十七日　新台子附屬地南方にて二十名の馬賊守備隊と衝突し守備兵其の一員を刺殺す
八月十九日　長春驛にて支那兵横暴の行動に出でしため列車より引降ろしたるところ矢庭に拳銃を出して邦人二名を射殺す
立山線山關石路上にて石塊三十個を並べ列車の進行を妨害せんとしたるを發見す
撫順塔連附近に五十名の馬賊來襲し豪農の子息を拉去し一萬圓の身代金を要求す
八月廿四日　遼陽驛頭にて馬賊六名を逮捕す
八月廿六日　中央政府は滿洲に於ける排日運動を目的とする國民外交協會支部を省内各縣に設立する旨電命を發す
八月廿八日　五龍背附近にて安奉線列車に發砲せるものあり守備兵出動して取調を行ふ
八月三十日　昌圖、法庫門、鐵嶺、開原方面馬賊の跳梁甚だしく通江口市街へ避難せるもの三千名の多きに達す又奉天附近にも馬賊横行す
八月　　濱海線路は汽關車十輛の新造に當り公入札に依り昭和四年八月滿鐵第一位、三菱第二位に落札したるに拘らず排日的動機にてスコダ工場より購入するに至る
八月三十日　北滿國境に向け出動の奉天軍續々奉天を出發す
東支鐵東部沿線牡丹江驛に駐屯中の支那兵（吉林軍）同地居住の邦人を襲ひ掠奪し八木哈爾賓總領事より警告を發す
昌圖縣にて縣知事の邦人迫害事件起る
安奉線通遠堡奥の久原鑛業經營の青城子礦山に對する支那側官憲の壓迫猛烈を極むとの報に接し連山關守備隊より守備兵一ケ中隊出動す
猶同鑛山に對しては縣知事の命なりと稱し金三千圓の强制貸與を要求する處あつた
九月初旬　奉天小西關大街第四區邦商井上誠昌堂店舗前に支那稅捐局員立番し稅金の納入方を勸誘し支那商店に對し井上方より購入の物品に對し十倍の罰金に處すべしとの傳單を配布した
九月三日　安山附屬地内安山神社裏に二十名の支那馬賊潛入し居たるを發見警察守備隊より討伐隊出動した
九月四日　奉天は一九〇三年米支通商條約に依り開港せられたるものなるに拘らず奉天支那官憲は奉天城外に商埠地を設定し此所に限りて外人居住營業を許すとの見解のもとに我方抗議を無視し城内居住邦人に對し家主迫害の方法を以て立退を餘儀なからしめたる結果城内殘留者は次第に減少を來し四十四戸を算するのみとなる

獨右に關し支那側公安局員は次の如く言明した（外國人に對する家屋の賃貸は今回省政府の命に依り現在外國人が借家し居るものに對し家賃及賃貸契約殘存期間等調査中で今後賃貸期限滿了後は官憲の許可を經ざれば絶對に再契約をなさしめず）云々

九月五日　奉天附屬地洋品商三協商會に馬賊闖入し拳銃で金庫を奪ひ自動車運轉手を脅かして去る

九月六日　東支鐵道にて支那軍の北滿出兵の爲め穀類の南下を禁止す

奉天宮島町運送店滿鮮洋行古井正雄は製繩を運搬すべく公和橋を渡りし時支那側稅捐局員課稅を要求荷馬車二臺を抑留した

長春三笠町鮮人宅に三人組の强盜押入り現大洋を强奪逃走した

九月初旬　遼寧省（奉天）にて對露軍費捻出の爲め臨時戰時稅を徵收に決し各團體に割當を行ふ

九月七日　首山驛附近馬尹屯に馬賊來襲し附屬地へ避難せるもの百九十名に達す

又安奉線釣魚台附近に馬賊來襲農家の子供を人質として去る。

九月九日　四平街にて久保巡査警邏中馬賊に狙撃され重傷を負ふ

柳河縣にて居住邦人驅逐を公安局より輸達す

九月九日　滿洲里にて露支交戰再び起る

九月十日　撫順炭坑共產黨事件取調べを了し內容發表さる

九月十一日　日滿連絡飛行開始さる

九月十二日　四洮路沿線臥虎屯北方に三百名の馬賊現はれ鐵道を挾み對戰二ケ列車立往生す

九月十二日　吉林總領事川越茂氏靑島に轉じ石射猪太郎氏吉林在勤を命ぜらる

又長春領事永井淸氏墺太利に轉じ後任に田代重德氏來任す

九月十三日　長春附屬地外にて長春駐屯第三十八聯隊堀尾大尉以下三百八十名戰鬪演習中突如長春縣公安局正門より五六發小銃發砲されたため直ちに公安局を包圍し巡警の武裝解除を行ひ劉局長以下二十六名を逮捕し長春に引揚げ嚴重交涉した

九月十四日　首山驛南方の部落に二百名の馬賊集團來襲し守備兵十四名出動動靜偵察中賊團發砲し激戰を交へ鞍山守備隊より守備兵八十名出動した

遼陽守備隊岡本上等兵は左手に負傷した

奉天北陵柳原農場附近にて鮮人强光盛支那兵のため刺され我官憲嚴重抗議す

九月十五日　馮庸大學義勇軍北滿に出征滿洲里方面の第二軍に參加す

九月中旬　奉天財政廳の省庫缺乏甚だしく兵工廠、材料廠、糧料廠の支拂額二百三十萬元對露軍事費六十萬元に達せる爲め奉天銀行團より百五十萬元の借入をなした北寧鐵路（京奉鐵路）局長高紀毅滿蒙鐵道の統一計畫を發表し東北鐵道督辦公署を設置して鐵道事務の統一を期すと語つた

九月十七日　奉天にて支那巡警鮮人に對する暴行事件頻發し滿洲オフセット職工東南拳銃にて威嚇され又細川組土工袋叩きに遭ひ白金指輪と奉天票十六元を奪取され負傷我總領事から支那官憲に嚴重抗議す

九月十七日　四平街附近に馬賊來襲四平街警察署は非常召集頭目一名逮捕す

九月十九日　奉天馮庸大學義勇軍の北滿出兵を迎へた長春の學生團歸途（打倒日本人）等誌せし旗を振り翳して練り歩きしため我官憲嚴重警戒した

九月十九日　東支南部線窰門にて日本婦人吉岡かよ馬賊の爲め刺殺さる

九月二十日　長春腰碑子溝にて發現せる我守備隊に對する支那巡警の發砲事件永井領事より嚴重に抗議す

九月二十日　長春附屬地東五條通にて我鵜木巡査巡邏中馬賊に狙撃され右上膊部に貫通銃創を負ふ

又開原中央公園にても我警察署員馬賊に狙撃さる

北滿出征中の支那軍隊叛亂を出し武裝兵數十名逃亡馬賊團に投じ地方民の不安大いに募る

九月廿一日　奉天に於ける排日的氣勢高潮の度を加へ來り殊に最近は滿鐵附屬地に對して支那側課稅の權限なきに不拘、附屬地內居住支那人（飲食店料理店）に對し營業稅を課せんとし日本側にて之を阻止するや附屬地外の納入を强要し又は附屬地內より搬出の商品に對し營業稅二分出產稅三分を賦課するに止まらず脫稅防止のため取引先たる支那人に對する壓迫罰金の賦課附屬地境界に於ける管理人の配置等の手段を講じて納稅を强要するに止まらず邦人の取引商品に對しても同樣不法の手段を採るに至つた

九月廿三日　鐵嶺駐屯の我三十八聯隊の兵卒散步中支那巡警十數名と衝突し日本兵三名支那巡警の爲めに拳銃を以て狙撃を受け負傷するに至り直ちに我軍隊出動し兵營を包圍して犯人の引渡を要求鐵嶺帝國領事は支那公安局長に對して嚴重抗議し主要犯三名、巡警十數名を憲兵隊に引致し取調をなす、日本守備兵の負傷は四名に達した

哈爾賓濱江縣總會は廿三日に一般商人に對し日本人經營の東三省漢字新聞購讀を今後一切禁止す

る旨通告を發した

九月廿三日　張學良は中央政府蔣介石に對し東三省の鹽稅收入中現大洋一百萬元を對露軍備に充當すべく諒解を乞ふ旨電請した

皮子口沖に海賊現はれ日本の漁師山根丈之助人質として拉去さる

九月廿五日　朝鮮總督齋藤實子任命さる

九月廿七日　鐵嶺にて我四兵士を負傷せしめし公安隊長尙振武は逃亡行方を晦まして居たが支那官憲に發見さるるや逆上して自殺を遂ぐ

遼寧省にて二千萬元の卷煙統稅公債を發行金融維持計畫をなす

九月廿九日　國民外交協會では鐵嶺日支軍憲の衝突事件に關して排日氣分を揚ぐべく協議す

十月二日　大連附近强盜事件頻發し大連警察署吉田巡査非常警戒中馬賊のため射殺さる

十月四日　奉天附屬地に馬賊來襲我警察隊出動の爲め拳銃を放ちつつ逃亡す

十月十日の雙十節當日奉天國民外交協會に排日示威遊行を行はんと計畫し張學良中止を命じ北大營にて閱兵式を行ふ事となる

十月五日　國民政府周龍光氏鐵嶺事件を濟南事件以後の重要排日材料となすを聲明す

十月六日　遼寧省翟主席は國民政府の密命にて日貨排斥の方法研究資料を蒐集に決し左の調査を開始した

一、日貨出入數量調査

一、輸入日貨の製造所及省內に於ける日貨工場の名稱、製造種類、資本金

一、商人（日本）の經營方法

一、省內に於ける日貨販賣狀況

一、日貨販賣の支拂商店

十月六日　鞍山獨立守備隊第四大隊大神中尉以下立山附近にて演習中何者か八發の射擊をなす

十月八日　奉天小北門より城內各所に支那官憲の手にて東北軍事政治訓練發行の傳單貼布さる記載事項は租界地回收、打倒赤色帝國主義、不平等條約撤廢、外貨排斥領事裁判權撤廢等數項に亙る

十月八日　得利寺居住邦人宅に數名の馬賊來襲主人に負傷せしめ金圓を奪取す

奉天附屬地居住露人ニコライビトウキツチ方に突如支那官憲兵來襲家宅搜査を行ひしため總領事館より我警察權を侵害せるものとして嚴重抗議す

十月十一日　東北政務委員會支那時局に對して東三省は中立の態度に決す

十月十五日　奉天隅田町に七人組の辻强盜現はれ現金一千圓を掠奪す

十月十六日　奉天の支那側國民外交協會は外貨抵制、國貨提唱の見地から遼寧省中華國貨社を創設事務所を商工會內に置き趣意書を各方面に配布した

十月十八日　奉天商工會議にて放行稅問題に就き附議し支那官憲の通商妨害に關する件なる題下に日本商議協會に本問題を提出する事となる

十月十八日　奉天北陵にて日支獨三國陸上競技大會開催さる

十月十九日　大本敎主出口王仁三郎一行支那の紅萬字會と提携のため來奉更に北京に向ふ

十月廿一日　大石橋附近他山驛前に馬賊來襲の爲め澤幡巡査出動し賊彈に射殺さる

范家屯邦人特產商西村萬吉方に八名馬賊來襲西村外店員（邦人）の二名射殺され長春警察及び守備隊出動す

又長春附屬地に四人組馬賊來襲長春警察署は非常警戒に任ず

十月廿二日　支那官憲邦商の店員に自轉車の記號番號票手落の爲めと稱し科料二圓を申渡したので領事館警察より警官出動し取戻を行ふ

十月廿三日　太平洋會議に出席の遼寧代表一行五名出發す、同會議に左の七項を提議す

一、滿鐵沿線郵便權回收
二、支那內地に於ける朝鮮銀行券の流通制限
三、諸外國の商業投資反對
四、南滿沿線旅大租界回收
五、駐屯軍隊並に警官制限
六、鮮人移民反對
七、洲外鑛業漁業權回收

十月廿三日　國民政府東北鹽稅の北滿軍事費流用を承認し來る

十月廿六日　奉天附屬地に馬賊來襲警官隊と交戰一名を逮捕す

十月廿八日　吉林省東寧、寧山兩縣の支那官憲在住鮮農に立退を强要す

十月廿八日　京都市に於て太平洋會議開催さる

十一月一日　奉天滿鐵驛で我登巡査守備兵の應援を得て馬賊と交戰の上之を逮捕す東支線太平附近にて列車爆破され死傷者多數を出す

十一月二日　北滿戰況支那軍敗退し富錦遂に露軍の手に歸す

十一月四日　太平洋會議に於て支那代表左の四項を滿洲問題に關して提案す
一、日本は領土に關する野望なき事を表明する事
二、日本官憲は權力を濫用せぬ事
三、日本警察權を支那に還付する事
四、門戸解放を嚴守する事
十一月五日　湯崗子南方中所屯信號所附近にて十一名の馬賊來襲湯崗子守備隊分遣所より飯島軍曹以下出動交戰二時間に及び匪賊八名斃したるも飯島軍曹賊彈に當り戰死し鞍山守備隊より守備兵三十名急行す
十一月十日　瀋海、吉海兩鐵道の連絡運輸は十日より開始するに決す、且つ特定運賃制を設け滿鐵への對抗策を採る
十一月十一日　遼寧省政府は今年夏の大水害に鑑み糧食の出境を禁止する旨各縣に通知す、支那側にて寬城子長春間支那鐵道の起工を策す
十一月十二日　奉天附屬地に七、八名の馬賊來襲鐵西窯業工場を荒す
奉天にて支那側市政公所榊原農場の堤防を破壞したるため我總領事館は嚴重抗議した、撫順にて附屬地內支那人貴金屬商に馬賊來り我溝巡査格鬪して負傷を負ふ
十一月十四日　撫順にて我警察隊出動馬賊と交戰し巡捕負傷す
開原附屬地に馬賊侵入支那特產商を襲ひ我警察非常警戒す
十一月十六日　東三省官銀號特產買占めを行ふ
十一月十七日　吉林省の鮮人防過策として雇主の支那人を取締る命令を發し左の取締を行ふ事となる
一、支那人が水田を拂下げ耕作する場合は自ら耕作に當るを原則とし他人を雇傭する場合は支那人に限る事
二、水田の拂下げを受けたる支那人は鮮人と共同し又は鮮人を雇傭して耕作したる場合は該水田の拂下げを取消す
十一月十九日　ダライノール方面にて露軍東支鐵道列車を襲ひ乘者員を虐殺す
十一月下旬　奉天省財政貧乏し內は經濟的に破綻し外は對露問題收拾不能にて累卵の危きにありとする聲漸く高し
十一月廿一日　露支戰鬪支那不利にて遠來諸爾にて黑龍江軍十七旅全滅の報至り邦人引揚ぐ

十一月廿三日　軍政改革を機會に滿洲守備隊の配置變更を企圖さる
十一月廿三日　四洮洮昂兩沿線各地の排日最近露骨となり支那當局邦人との交易禁止密令を發す
十一月廿四日　海拉爾にて露支軍の激戰起り支那軍大敗總退却し興安嶺以西悉く露軍に歸す
奉天北陵鮮農金應壁方に八人組馬賊來襲す
十一月廿六日　奉天驛にて馬賊占北の部下四名登巡査等の手にて格鬪逮捕さる
十一月廿六日　東三省救國會、商工聯合會、教育聯合會、東三省全民代表者は日米獨英國際聯盟事務總長に宛て露支問題に就き國際調査委員會を組織して眞相調査依賴の旨通電を發す
十一月廿七日　臨江方面復も大刀會策動二百餘臨江縣を襲擊す
十一月廿七日　張學良よりの提唱にて奉露交渉開始さる勞農側リトヴイノフ左の提言をなし來る
一、東支鐵を紛爭前の現情に復する事は支那側無條件で同意すること
二、東支正副管理局長を即時復職せじむること
三、今回紛爭に關連したる勞農國籍者即時釋放すること
十一月三十日　長春三笠町にて鮮人料理店に馬賊襲來之と應戰せる山岸巡査殉職す
十一月三十日　公主嶺附近郭家店附屬地に馬賊來襲我當局嚴戒を加ふ

十二月三日　長春陶家屯驛附近にて馬賊我巡捕を襲ひしに對し極力應戰せるも七彈を浴びて殪る
十二月四日　奉天小西關赤十字病院附近にて馬賊警察官を射擊したるを逮捕す
奉天城內外匪賊出沒頻りにて一夜七件の馬賊事件出現す
十二月五日　東支鐵道督辦呂榮寶辭任す
十二月六日　安東海關の輸入課稅不統一にて非難の聲起る
十二月八日　馬賊三十餘名四平街附近東家堡驛に現れ我守備隊出動して嚴戒す
十二月十一日　哈爾賓西方ハクタに於て支那軍叛亂せんとし市民大恐慌を來す
十二月十五日　公主嶺附屬地に馬賊來襲夜警と交戰賊一名射殺され夜警及支那人を銃殺す
十二月十六日　北滿免渡河に於ける支那兵叛亂掠奪を行ひ家屋を燒き拂ひ慘狀を極む
十二月十九日　遼陽煙臺附近に馬賊北平好の一味來襲討伐隊と交戰し人質三名を拉致す
十二月二十日　奉天支那側にて北陵榊原農場の一端を通過し北陵行の通路を擴張せんとする問題に關しては支那側と榊原農場主立合のもとに實地踏査を行ひ支那側にて一部買收する事となる
十二月二十日　翟省長辭職し王樹翰民代理す
十二月廿一日　我對滿方針は暫く觀望的態度を採るに決す

十二月廿一日　露支紛糾圓滿解決し支那軍引揚準備を開始す
十二月廿六日　露支紛爭漸く解決したので東西國境に出動の支那軍引揚準備を開始す
十二月廿八日　國民政府の治外法權撤廢正式に聲明さる
十二月廿九日　奉天城內四平街にて支那巡警我通信夫に對し馬夫及通信夫を毆打暴行を加へし爲め奉天總領事館　ては嚴重抗議す

九、民國十九年一箇年

一九三〇年（昭和五年　民國十九年）——學良・蔣合體成る

一月一日　滿洲駐屯第十六師團滿期
一月三日　米國は國民政府の治外法權撤廢を拒絕す
一月四日　洲外滿鐵附屬地行政權移管問題關東廳當事者の間にて協議さる
一月十日　四平街附近忙牛哨に五十名の馬賊來襲し我守備兵出動交戰し賊五名を射殺す、公主嶺附屬地外支那側檢査所　八人組馬賊侵入し金圓を强奪す
安東市內にて巡邏中の安東署巡捕馬賊より射擊され他に市民一名卽死二名負傷す
一月十三日　四平街國際運輸店員馬賊に襲はれ五千五百圓を奪はる
一月十六日　奉天北寧線陸橋附近にて我守備兵巡察中支那人枕木にて抵抗前川一等兵發砲支那人を負傷せしめた
熱河省政府では林西駐在の勸業公司員に對し日本人の生命財產を保護せずと發令した
一月十六日　新臺子、亂石山鐵道西に二十數名の馬賊來襲守備隊兵虎石臺より出動す
開原附近金溝子にも馬賊來襲支那官憲百餘討伐に出動す
一月二十日　大石橋附近に匪賊來襲大石橋署員と交戰す
一月二十日　昌圖縣通江に馬賊來襲し邦人酒井妻女射殺さる
一月廿三日　安東大和通邦人中村運送店に馬賊來襲主人に重傷を負はす
一月　獨立守備步兵第四大隊は鳳凰城、九連城、安東間にて演習實施の旨領事經由支那側に通告せしに安東市政籌備處長は（演習）行軍は鐵道沿線附近にて實施し深く奧地に入らざる樣との警告的回答をなし我軍の感情を害せり
一月廿三日　撫順にて我警官松元、江見、熱行の三巡査三人組馬賊と交戰松元巡査重傷を負ふ
一月廿三日　支那交涉署領事館に宛て爾今省城の夜間通行人に對して身體檢査を行ふ旨通達して來

たので直ちに不法行爲として抗議した

一月廿四日　奉天商工會議所にて支那海關の布告極めて亂暴となりし爲め之れが改善方を要路に提出した

一月廿六日　公主嶺長近郭家店附屬地に馬賊來襲し警官隊と交戰し公主嶺署の山根巡査卽死し、平林警部補以下四名負傷す

一月下旬　遼寧省國民外交協會では愈ゝ陰曆正月を利用して排外運動の施行をなすべく決し不平等條約撤廢、領事裁判權の二項回收を主題目とし利權回收を絶叫し更に日貨排斥を言及し盛京時報の購讀禁止等極端なる排外熱の煽動に努め二十日より六日間市長大會を開催講演會を開くべく排日熱鼓吹の運動に着手するに至る

一月　安東日本領事館輯安出張員居住家屋の明渡に關し家主は官憲の使嗾により我に迫つて來たが我抗議により沙汰止みとなる

二月上旬　奉天外交協會の示威運動は外交上支障を來すを恐れ官憲の阻止で中止せらる

二月十四日　天圖鐵道江岸店驛發車八道河子附近にて馬賊に襲はれ邦人の死傷五、六名を出す

二月十八日　郭家店附屬地外に馬賊來襲掠奪を行ひ討伐隊交戰巡警殪る

二月廿三日　自動車使用の馬賊奉天葵町にて邦人を射殺す

二月廿四日　奉天附屬地にて馬賊と我警察官交戰し賊を射殺す

三月一日　遼寧國民外交會奉天小西關一帶に領事裁判權撤廢の宣傳ビラを撒布す

三月二日　遼寧外交協會二日總商會にて領事裁判權に關する排日講演會を開く

本溪湖歪頭山驛にて支那馬賊來襲我軍出動して支那官憲と交戰す

三月七日　蘇家屯附屬地に馬賊來襲我守備隊出動す

三月七日　日支關稅交涉開始さる

三月十日　奉天製麻會社工場を閉鎖す（不況の爲）

三月十日　奉天附屬地にて支那巡警邦人を不法拉去す

三月十三日　撫順にて馬賊と我警察隊衝突巡捕一名負傷す

三月十五日　奉天附屬地に馬賊來襲達州銀號の店員射殺さる

遼寧省國民外交協會總商會にて排日講演會を行ふ

本溪湖に馬賊來襲本溪湖署にて署員の非常召集を爲す

三月廿二日　奉天附屬地に馬賊現はれ支那人煙草商を襲ひ警察隊出動す

三月中旬　昭和四年五月末建築中の北寧中央停車場は工費四十四萬七千八百圓にて獨逸マルクス建築會社の手にて竣工した

三月廿五日　昌圖にて馬賊邦人を襲ひ巡捕負傷せしめて逃走す

長春警察官内苑家屯井上藥店に三人組馬賊侵入主人射殺す

三月廿七日　奉天商埠地にては奉天居留民會に家屋税徴收を交渉して來たが之れを拒絶し來れるが道路街燈其他の便益に報ゆる意味にて年額一千二百圓の寄附を爲す事となる

三月卅一日　馬賊奉天附屬地を襲撃現大洋を强奪逃走す

四月三日　哈爾賓の支那學生約百名國際協報（共産的色彩）を襲撃す

四月六日　旅順大官屯發電所工費三百七十萬圓で增築に決す

四月初旬　安奉線鳳凰城附近煙草栽培に關し支那側は公安局より各地主に對して日鮮人に貸與すべからずとの命を發した

支那側官憲の取締不行屆の結果昭和四、五年に於て滿鐵が洲外に於て蒙りたる諸被害左の如し（五年度に於ける件數減少は我方に於て特に豫防に努めたるによる）

年度（暦年）	昭和四年	昭和五年
運轉妨害數	八七	八四
運轉中貨物盜難件數	一一四	七五
鐵道用品盜難件數	一七	五
電線盜難件數	一三	一五

四月七日　營口海關にて南京政府の命にて穀類の輸出禁止の命を出す邦商損害甚だし

四月八日　鞍山にて我警察員馬賊と交戰し横井善一巡査卽死し巡捕重傷す

四月九日　遼河上流工程局技師長岡哲成代一行馬賊に襲はる

四月上旬　鴨綠江沿岸にて一千餘名の馬賊團横行し鳳凰城縣下にては此の種事件頻出す

四月中旬　奉天省防穀令に對し日本側より嚴重抗議す

四月十五日　安奉線高麗門驛北方にて線路に石を置き列車顚覆を計畫したるものあり守備兵發見未然に防止す

四月十八日　遼寧省政府の雜穀輸出禁止令に對して我總領事館張學良に抗議を提出す

四月二十日　東北交通委員會は東支鐵南部線と吉長鐵道との連絡線として下九臺、張家灣間の新線

計畫す

四月廿一日　奉天十間房居住邦人支那巡警のため長銃で邦人毆打され總領事より嚴重抗議す

四月廿三日　長春驛構內にて馬賊と警察隊交戰し馬賊射殺さる

四月廿四日　奉天小西關久保洋行店員西城儀則は大西邊門外にて中折帽茶碗の輸送を阻止さる
又奉天加茂町布袋洋行にて靴を持運ばんとして小西邊門外にて稅捐局員に差止めらる

四月下旬　安東附屬地にて支那官憲の爲め附屬地居住の華商逮捕收監され問題を起す

四月廿四日　長春附屬地に馬賊押入り邦人卽死す

四月廿五日　奉天にて支那巡警二鮮人を拉去し我領事館警察より抗議釋放さる

四月廿七日　鴨綠江下流にて馬賊上山好の一派猛威を振ひ撫松、臨江、通化、寬甸の各地に賊團橫行す
開原朝鮮銀行支店にて馬賊窓口に現はれ拳銃を突き付け掠奪せんとし警察隊出動逮捕す

四月廿九日　東支鐵南部線にて馬賊哈拉哈驛を襲ひ金品を强奪して去る

五月一日　哈爾賓の不逞鮮人三十二名我總領事館を襲擊す

五月三日　奉天總商會內にて五三、五四の記念日開かれ排日的會談行はる
奉天西塔居住の鮮人二名支那官憲の爲め拉致さる

五月五日　鞍山守備隊の川村上等兵以下四名馬賊と衝突し小川一等卒兩腕に負傷守備軍と警察協力之を追擊す

五月初旬　滿鐵の傍系會社たる復州鑛業株式會社は遼寧省農鑛廳の正式許可を經て復州灣一帶の粘土興業公司と賣買契約を締結し居りたるが本年六月に至り關係支那人周文富に壓迫を加へ不法に該興業取消を通告せる事實あり

五月五日　撫順農業公司と支那側との打合惡く同公司の鮮農數十名總領事館に哀願して問題解決を訴ふ

五月六日　日支關稅協定正文六日南京にて調印さる

五月十三日　奉天附屬地中島運送店の荷馬車に對し支那稅捐吏徵稅を要求す

五月十三日　秩父宮殿下御來奉遊さる

五月十六日　安東縣六道溝附屬地にて支那稅關吏鮮人を慘殺したる爲め鮮人激昂して海關に迫る

五月廿六日　奉天票暴落し前途憂慮さる

五月廿九日　遼陽附近張臺子附屬地に馬賊來襲遼陽署より警察隊出動す

五月卅一日　畑關東軍司令官更迭六月一日後任に菱刈隆大將親補さる

六月二日　長春守備隊兵營附近にて十數名の支那竊盜團兵營の金物を盜みしを守備兵發見二名を射殺す

六月　日　四平街にて馬賊團來襲警官隊と交戰賊三名を射殺す

六月四日　撫順にて馬賊六名と日支警官交戰せるも馬賊逃る

六月七日　奉天附屬地に馬賊入込み奉天警察署員出動して交戰二名重傷一名逮捕

六月九日　奉天鐵西煉瓦工場に馬賊來り配給監督を射殺の上金圓强奪して逃亡す

六月十三日　滿鐵職制改革のため人事整理を行ひ整理員八百名に達す

六月　獨立守備步兵第二大隊の軍馬が北大營附近に於て放馬し該兵營內に入れるに彼等は之を隱匿し言を左右して事件解決を遷延せしむ

六月十三日　新臺子に馬賊來襲し我警察隊出動す

六月十六日　撫順にて馬賊警察隊と交戰巡捕一名卽死一名重傷を負ふ

六月十七日　長春范家屯にて馬賊邦人を襲ひ松岡夫妻（邦人）負傷す

六月廿一日　關朝璽の部下等兵鏡泊湖地方にて官民を慘殺民地を奪取して問題となる

六月廿三日　奉天總商會にて盛京時報を購讀するなと振れ廻る、撫順にて保甲隊と巡警共同して交通整理の我警官江崎巡査を毆打致し市民憤激して大會を開かんとし藤村領事調査の爲め急行す、支那側公安局長は奉天總領事を訪ひ陳謝の意を表す、猶左記の三項を條件として解決す

一、暴行支那官憲の嚴重處罰

二、支那當局責任者の謝罪

三、被暴行警官に對する慰藉

六月廿五日　支那側盛京時報に對して壓迫を加へ密偵を派し探訪記者を警戒且つ購讀中止を行ふ

六月廿六日　錦縣方面馬賊跳梁の爲め大いに不安を增大し自衛團を組織して嚴戒す

奉天附屬地紅梅町に四人組馬賊來襲し金圓强奪し我警察非常召集を行ふ

六月廿六日　昭和製鋼所愈〻鞍山設置に內定す、六、七百名より成る有力なる馬賊機關銃手榴彈を携帶し溝帮子襲擊を企て奉天錦州間は一時列車不通に陷る

六月三十日　鞍山驛北方にて守備隊藤川曹長匪賊の襲擊を受け大腿部に負傷す

七月二日　支那側葫蘆島築工起工式を擧げ張學良は該計畫は是非共完成せしめねばならぬと語つた

七月初旬　本溪湖附近萬兩河居住鮮人支那官憲に留置されしも公安局の誤解なる事判明落着す

七月三日　奉天江之島町の支那人木炭商の自轉車に地方事務所、支那公安局の二鑑札あるを警察當局發見支那官憲が二重課税を爲したるものとして問題となる

七月　日　奉天支那税捐局では領事館管内邦人質屋業者二十三名に對し一ヶ年現大洋五十元の納付を迫りし爲め不當課税として奉天總領事より嚴重抗議をなした

七月七日　西安縣西安に在る日支合辦炭礦公司事務所に四人組馬賊來襲邦人を縛し金品を强奪し去る

七月九日　第一回見本市開催さる

七月十二日　木村銃市氏滿鐵理事に決定す

十月十九日　東支鐵東部線ウヂミへにて北滿在住の鮮人大會開催され左の二項を決議す

一、鮮人支那歸化問題

二、支那官憲の壓迫對策

支那側奉天税捐局にて爾今銷場税を金本位に改む旨通告し來る、邦人商人は之れが爲め時價にて二倍の納税を必要とするに至る支那巡警邦商石炭業原市郎店員を五時間餘り引致し拘禁して問題となる

七月十九日　連山關守備隊巡察兵敎矢一等卒草河口鐵橋附近にて鐵道軌條に妨害を加へ居る支那人を發見逮捕せんとせしに抵抗せし爲め射殺、我兵（一等卒）輕傷を負ふ

七月廿一日　錦州方面に支那官憲排日日に增し露骨となり料理店質屋全部に兵士を立番せしめ家屋契約の支那人を壓迫する等の排日行爲あり

又公安局督察長は部下八名を引卒して日本警察の門標を掠奪するに至る、牛莊領事館にては形勢を重大視して嚴重交渉す

七月廿九日　支那側外交協會田中内閣滿蒙積極政策なる無根の上奏文を種に排日氣勢を揚ぐ

七月卅一日　蘇家屯滿鐵木材防腐工場に四人組匪賊來襲し金圓三百九十餘元其他を强奪し電話線を切斷して逃走我が守備兵警官隊出動す京北交通委員會にて奉天法庫門間の鐵道敷設計畫を立案す

八月上旬　振興公司は昭和五年八月支那側官憲の申入に依り菱苦土鑛及長石鑛區に對する執照を提出したるが種々の理由を附して之を返還せず又右鑛區に對し納税命令ありたるを以て納税したる處菱苦土鑛採掘權は既に取消されたるを以て納税の要なしと稱し納入税は鐵捐に充當せる旨公文を發せり

八月五日　公主嶺守備兵蔡家大楡樹間鐵橋附近にて我守備兵と交戰賊二名を射殺した佐藤一等卒は賊彈に當り戰死す

八月六日　北陵沙河子居住の鮮農李錦淳、金奉官は巡警の許に水を求めたことから三十餘名の北陵巡警出動して李等を縛し北陵に不法拘禁さる

八月七日　奉天附屬地南端に六人組馬賊來襲新城子驛東南王官屯に二十餘名の馬賊現はれし爲め虎石臺より守備兵出動す

滿鐵本線列車に乘込みし開原昌圖を荒せる馬賊四名、列車警乘員の手にて逮捕さる

八月八日　奉天日吉町支那人兩替店に四人組馬賊來襲し二千三百餘元を强奪せるを金谷巡査追擊し殉職す

八月九日　大石橋東方部落にて二十餘名の匪賊と我巡警との交戰行はれ我守備兵五十名出動す

奉天十間房にて邦人稅所使用支那ボーイの問題から支那巡長邦人を毆打負傷させ分駐所に引致す

八月十日　陶家屯附屬地近郊に四十人組馬賊現はれ四平街より我官憲出動す

八月十二日　呼倫貝爾方面に大馬賊團現はれ博克圖方面にて掠奪暴行を行ふ

八月十二日　撫順に六人組の馬賊來襲警察隊出動し賊一名を射殺一名を逮捕す

八月十三日　間島一帶敦化百草溝地方にて鮮支人の共產黨旺んに横行す

八月十四日　局子街公安局不法にも我領事館宛の信書を開封破棄す

八月十六日　新城子南方支那部落に十數名の馬賊來襲し巡警の銃を奪つて射殺奉天署から警官隊出動した

八月十八日　營口三家子附近に馬賊來襲營口警察署員出動す

八月十九日　奉天附屬地內居住支那人（牛肉商馬寶山）に對し支那官憲營業稅を徵收し居たるを發見不當課稅として重大視さる

營口東方に馬賊團現はれ練軍營兵出動す

八月二十日　吳家屯支那部落に馬賊來襲支那官憲と交戰、我守備隊も出動す

八月廿一日　錦州にて水害のため邦人居住家屋破損したるを修繕せんとするに際し支那公安局は之れを妨害の態度に出で邦人を壓迫す

八月廿五日　奉天遼中縣間乘合自動車奉天西方にて四十名の馬賊に襲はる

八月廿七日　奉天北陵沙河子居住の鮮農李周榮は草刈り中第一公安分局に不法監禁され我當局此種事件頻發に根本對策を講究す

八月廿八月　首山驛東方附屬地に約六十名の匪賊現はれ鞍山守備隊遼陽警察出動部落民首山附屬地に避難す

八月三十日　奉天十間房にて支那巡警の總領事館ボーイ並に我警官に對する暴行事件起り支那側陳謝して解決す

八月三十日　王正廷、滿鐵沿線の郵便權回收交渉を提議す

九月一日　四平街守備兵五名四平街虻牛肖間にて五十名の馬賊と交戰四平街より我警察官出動す

九月一日　交戰中我守備隊第一大隊伊藤一等卒賊彈を受けて負傷す

九月一日　北支政府樹立し張學良も委員に加はる

九月二日　蘇家屯附屬地に馬賊來襲金品强奪奉天警察隊出動す

撫順にて馬賊の出沒頻々として起り一夜に三ケ所の馬賊事件起り一名逮捕一名射殺さる

文官屯西方に馬賊現はれ我守備兵出動し約二時間に亘る交戰をなせり

九月二日　馬仲河驛にて上り急行列車顚覆す

九月四日　支那側公文にて滿鐵附屬地の日本郵便局撤發を申込む

九月六日　長春附屬地に六名の馬賊侵入人質を拉去す

文官屯驛南方に十名の馬賊現はれ日支官憲出動して嚴戒す

遼陽附屬地に馬賊三勝の部下來襲遼陽警察出動警備す

九月十日　東北巨頭會議開かれ東北は嚴正中立の態度をとる

九月十一日　寧古塔にて鮮人小作人百名支那地主との爭議から支那軍隊と衝突し鮮人死者二十四名負傷者數十名を出す

九月十一日　張學良突然山海關方面の奉天軍に移動準備令を命ず

九月十三日　撫順歡樂園にて巡邏警察官馬賊の潛入せるを逮捕す

九月十四日　昌圖附屬地境界に馬賊來襲日支文官憲撤寄警戒す

九月十六日　新民居住邦人渡邊義親支那巡警の爲め毆打され大腿部に負傷す

九月十八日　白晝撫順線に馬賊乘込み乘客に拳銃をつけ大洋五千圓を强奪す

九月十九日　獨立守備兵第三大隊は大石橋南方迷鎭山麓に於て射擊演習を實施すべく通告せるに對し營口公安局長より高粱實らざるを理由として不法にも中止方を要求せり

九月廿四日　閻錫山、汪精衛兩氏太原政府を樹立し再起の基礎を固む

九月廿四日　撫順にて我警官隊馬賊を襲ひ武器を奪ひ頭目を逮捕す

九月廿四日　渾河驛附近にて我警察官賊と交戰賊を射殺す

九月廿七日　馬賊虎石臺附屬地に現はれ金品を强奪奉天から警官隊急行す

得利寺附屬地公學堂に馬賊來襲し兒童を人質として去り我瓦房店警察署員及守備隊出動す

十月三日　煙臺炭礦にて馬賊出現夜警を射殺し遼陽警察及守備隊出動警戒す

十月三日　安奉線鳳凰城北方一千米城西河附近にて我守備兵丸山上等兵外三名警備中線路上に石を積上げ鐵道妨害を企てし犯人を發見射殺す

十月五日　渾河驛東南苦力小屋に馬賊來り現大洋二百餘元を强奪し奉天署嚴戒を加ふ

十月六日　間島にて日本警察官と奉天兵及び支那警官衝突事件を惹起し我警官射殺され形勢重大化し朝鮮總督府より應援警官百名を急派す

十月七日　瑞興煙寸會社支那の販賣權を獨立せるに對し奉天當局は之れが阻止を開始す、龍井にて鮮人多數支那人より暴行を受けたので我官憲現場に赴きたるに支那兵約二十名より射擊を受け即死二名重傷一名を出す

十月八日　孫科氏來奉し東北交通委員會の立案せる滿蒙鐵道網計畫の內容を提示し獨逸資本團と提携鐵道網實現を期す〃

十月九日　林奉天總領事張學良に宛て我警官射殺事件を嚴重抗議す

十月九日　張學良の陸海軍副司令就任式本日擧行

十月十日　間島に於ける龍井我警官射殺事件の犯人は東北陸軍第十三旅の兵十餘名なる事判明す

吉敦綠江密蜂方面にて共產黨員旺んに橫行掠奪を行ふ

奉天駐屯部隊柳條溝附近にて演習中我兵二名何者にか射殺され一名大腿部に負傷す

安奉線五龍背附近にて滿鐵列車に小石を投げつけしものあり守備隊出動犯人搜査す

十月十五日　遼西馬賊新民縣に來襲保安隊と交戰、公安局長等七名戰死す

十月二十日　日支當局共產黨の暴動計畫を探知し警戒中龍井市內日支電線切斷され共產黨事件にて燒失再建築の頭道溝鮮人學校（總督府經營）放火の爲め全燒さる

十一月初旬　步兵二第十聯隊は駐屯記念のた遼陽城內王皇廟に戰跡保存會の承認を經て記念碑を建設せし　之れに對し遼陽縣政府は協定に依り支那側承認濟みとなるにも不拘ず該地の一部は民有地にして苦情ありとて中止方を要求せり

十一月七日　濟海鐵路は同沿線の炭礦を經營して石炭自給策を圖る

十一月七日　張學良天津に向ふ

十一月十一日　永井外務次官來奉に際して奉天人士の間に滿洲の我既得權益問題論議さる
十一月十四日　大連甘井子埠頭に六萬坪の大貯炭場新設さる
十一月十八日　間島事件圓滿に解決し中國側賠償金を出す
十一月廿二日　支那官憲武力を以て吉敦線の林場を封鎖せるため邦人權利を放棄して引揚ぐ
十一月廿二日　滿鐵の鶴見築港工事工費二百萬圓にて着工す
十一月廿四日　張學良の國民政府委員就任式を國民政府大禮堂にて擧行す
十一月廿七日　滿鐵に對する挑戰の爲め吉海奉海兩鐵道は運賃一割五分の値下を即日實行する旨發表す
十一月廿八日　滿洲鐵道問題に關し東京に於て外務當局間に根本的解決に關する協議行はる
十二月一日　東支鐵道東部沿線寧吉塔居住高岡號支店に强制課稅行はる
十二月二日　遼寧省財政廳は滿鐵附屬地より搬出する商品の價格表記低廉に失すとの理由にて鎖國稅を表記價格の一割增に計算課稅すべき旨を各稅局に通令す
十二月三日　張學良の南京訪問に對し我外務、拓務、陸軍、滿鐵の間に滿蒙の鐵道問題に關する意見交換され支那側の外資排斥による東北鐵道網完成等の挑戰的態度に對し當局重大視す
十二月五日　南京にて蔣介石、張學良の會見の結果東北の三大外交、交通、財政を中央に移行し全國統一の實を擧げ八千萬元國債を發行して滿蒙鐵道網を新に建設し滿鐵を孤立せしめん計畫樹立され我當局を大いに刺戟す
十二月八日　奉天附屬地製糖會社構內に馬賊侵入して我警察隊出動して一名を殪す
十二月九日　四洮線三江口附近にて七十餘名の馬賊團列車を顚覆せしめ大掠奪を行ひ邦人乘客八名（二木正金銀行四平街支店長、佐藤長春領事館巡査、淺野鄭家屯滿鐵公所員等）も多額の金額を掠奪さる
十二月九日　國民政府租界回收に次で駐屯軍撤退を要求せん事を決定す
十二月十日　北寧鐵道は外人の採用を禁止す
十二月十二日　滿洲鐵道網建設に關し東北交通委員會は五十六鐵道案なるものを發表す、右內容左の如くにて滿鐵側の之に對する對策重要視さる

線別	距離	起點	終點
吉五	一六二	吉林	常…
哈依	三〇八	哈爾賓	依…

朝陽鎭…安圖　三五八
黑河…安達　一一二
洮南…熱河　八八八
長春…大賓　二一二
齊々哈爾…扶餘　二四七
小橋江…林甸　二七
呼蘭…鶴立崗　四六二
海倫…嫩、江　二七〇
公主嶺…伊通　五七
鐵嶺…法庫　五六
盤山…大虎山　二四〇
新立橋…新邱　四八
臨江…安東　二七五
海林…鏡波湖　一三八
安東縣…鳳凰城　二八八
安東縣…大東溝　一一一八
安東縣…法庫門　三四五
大連…旅順口　一四八
扶餘…法庫門　八〇
林西…赤峰　二八
鶴立崗…敦化　二〇八
嫩江…龍江　九二
伊通…公主嶺　二一
法庫門…新民　一八四
大虎山…錦州　三二〇
邱新…營口　二三
拜泉…海倫　三五
鏡波湖…寧古塔　八六

密山…富錦
扶餘…哈爾賓
開魯…林西
開林…扶餘
濱陽…遼陽
打通路…鄭家屯
吉林…呼蘭
滿溝…青岡
窰門…德惠
臨江…長白
興江…臨江
寧吉塔…海林
滿吉…肇東
遼陽…窰家窩舖

赤蜂	林西	二七〇	林	赤
滿溝	興隆鎭	八八	興	滿
穆稜	三姓	二六五	三	穆
德惠	九臺	四五	九	德
一面坡	四常	九四	五	一
一面坡	依蘭	二二五	依	一
海拉諾爾	索倫	四八〇	索	海
石頭城子	楡樹	六四	楡	石
延吉	琿春	九五	琿	延
同賓	五常	一六八	五	同
新洮	林西	不詳	林	新
齊々哈爾	江黑	同	黑	齊
敦化	五常	同	五	敦
穆稜	牡丹江	同	牡	穆
哈爾賓	黑崗	同	黑	賓
密山	虎林	同	虎	密
吉林	寧吉塔	同	寧	吉
瀋陽	熱河	同	熱	瀋
朝輸	鎭蒙江	同	蒙	朝
達大溝	大和莊	同	大	達
三姓	一面坡	同	一	三
阜新	厲家窩舖	同	厲	阜
四平街	西安	同	西	四

十二月十二日　奉天西公太堡方面に馬賊團現はれ奉天日支官憲嚴戒を加ふ

滿蒙鐵道問題に關して我政府は支那側に左の要求を行ふ

一、抗議あるに不拘既に敷設された吉林海龍間及通遼打虎山間既設鐵道は已むを得ずとするも洮昂線及打通線を連絡し滿鐵の併行線を形成する懼ある洮南通遼間及び滿鐵の使命を扼するが如き其他の諸培養の敷設は强硬に阻止す

二、若し支那側にて之を實行するに於ては日本もこれに對抗の滿鐵培養線敷設權を獲得し各貨物の公正な吸收を策す

三、長大線敷設權を要求す

四、吉會線豫定計畫を完成す

十二月十二日　滿蒙鐵道計畫に基く滿鐵の鐵道交渉開始に決す

日支共存共榮を主眼として行はる

十二月十二日　奉天鐵面窯工場に馬賊來襲し我警官隊交戰賊一名を射殺す

十二月十三日　洮南鄭州冐兒山の三ケ所に我領事館を新設するに決し支那側の承諾を得た

十二月十四日　奉天大西關にて支那憲兵邦人質店の營業を妨害し我領事館警察より嚴重支那側憲兵司令部に交渉す

十二月十七日　現在奉天にて發行せらるる各銀行紙幣を忌避する者は金融援罪を以て處罰すべき旨政府主席より各縣政府宛通達す、新城子附屬地附近に二百名の馬賊現はれ形勢重大視さる、奉天警察署より警察隊出動し警戒す

北滿本線虻牛哨西方に馬賊八十名來襲公安隊出動交戰す

十二月十九日　滿蒙鐵道問題に關し我軍部硬化し張學良の軍事顧問引揚說傳はる

十二月廿五日　新城子に現はれし二百名の馬賊、拉塔溝部落を襲擊し掠奪し我軍隊警官出動警戒に當る

十二月廿六日　東北交通委員會は滿鐵排擊のため過般來瀋海吉海兩鐵路をして再三運賃の引下を斷行せしめ最近洮昂、四洮兩路に對し打通北寧線に連絡輸送さるる貨物の運賃割引をなすべき旨の命令を發す

十、滿洲事變勃發す

一九三一年（昭和六年　民國廿年）

一月五日　蔣介石の治外法權問題に關する暴言問題化外交團之が取消を要求す

一月七日　范家屯にて八名の馬賊邦人に拳銃を亂射し金品强奪守備隊及警官隊出動す

一月十一日　支那側は打通線に對する貨物吸收策として鄭家屯に城關稅捐局を設置し滿鐵行貨物一切に對し課稅すると共に打通線經由の貨物に對して免稅計畫を樹て準備す、

一月十四日　奉天は一九〇三年の米清通商條約及同年の日清通商航海條約にて開放を約した所で其

開放區域は單に商埠地に限らず城内をも含むは明かなるに遼寧省長は之等地域にて日本人に家屋の賃貸禁止及日本人との家屋賃貸契約の延長禁止を嚴命した爲に其契約期限到來するや家主は官憲の使嗾により極端な高き家賃を要求する爲め借家の契約は全く不能となつた（昭和二年に奉天城内にあつた百三十四戸の日本人中昭和六年現存せるもの僅々二十三戸となる）

一月十六日　關東長官太田政弘臺灣總督に任じ新たに塚本清治氏任命さる

一月十九日　滿鐵は木村理事をして愈ゝ張學良の歸奉を待つて鐵道問題の交渉を開始するに決し大體の要求點を左の四點とした

一、洮昂吉敦線の請負金に對して支那側に有利なる借款形式に改む

一、四洮線の借款契約更改

一、打通吉海奉海等の條約違反鐵道に對しては日本共存共榮の友誼的精神にて之を是認す

一、日支鐵道貨物爭奪競爭は之を避くる事

一月十九日　遼寧省が新設すべき營業稅、特稱費稅の稅則は委員會（省政府）に審議中愈ゝ營業稅條例二十二條、特殊消費條例二十三條の施行細則決定廻付さる

一月二十日　馬賊四名奉天附近信號所に來襲邦人を裸にして强奪我警察隊出動警戒す

一月廿一日　滿鐵木村交渉部長來奉愈ゝ鐵道交渉開始さる

奉天教育專門學校廢止に決す

一月廿一日　張學良に對し勳一等旭日大綬章贈與され林總領事より傳達す

一月廿三日　北寧瀋海吉海の三線貨物連絡運輸愈ゝ來る廿五日より實施に決す

一月廿六日　滿鐵本線四平街虻牛哨間にて軌條枕木何者かに拔かれし爲め列車脫線し守備隊駐屯隊出動して嚴重警戒す馬賊の計畫的陰謀として注目せられ今後之に對する警戒策として三十分毎にモーターカーを運行せしむることとなる

一月廿九日　張作相國民政府委員の辭表を提出せるも張學良の勸告にて本日辭表を撤回す

一月卅一日　四洮鐵路局は試驗的に開滦炭を購入し撫順炭の驅逐を圖る

二月一日　三十名の馬賊虻牛哨に來襲し守備兵四十五名出動警戒す

二月二日　安奉線高麗門鳳凰城間にて軌條に大石を轉がし列車顚覆を企て白墨にて日本鬼と落書してあるを發見鷄冠山守備隊から福岡少尉以下八名を引率し出動支那側に抗議す

鐵嶺居留地鮮人宅に一名の支那巡警來り家宅搜査をなし之が制止に向ひたる我警官に對して四十名の巡警暴行す

安奉線高麗門鳳凰城間にて又も軌條に大石を押込みあるを發見守備隊更に嚴戒を行ふ

二月五日　奉天紡紗廠通遼に支廠を附設す

二月六日　開原にて馬賊我巡捕を射殺し開原署非常召集を行ふ

二月八日　安奉線列車妨害事件頻發の爲め安東驛にて對策を研究前衞車運轉を行ふこととなる

二月十日　新城子附屬地邦人吉岡關藏方に馬賊來襲し妻女射殺さる

二月十一日　奉天守備隊齋藤上等兵以下四名文官屯より虎石台に向ひ線路巡察中馬賊突如發砲之と應戰一名を射殺す、奉天守備隊より武田中尉以下出動す

二月十三日　煙台炭礦附屬地にて馬賊と我警官隊衝突し泉司法主任負傷す

北寧鐵路の工夫二百名解雇騷ぎより列車の進行を阻止し問題を惹起す

二月十四日　白音太來附近に二千名の大馬賊團來襲し八面城の東北邊防軍出動警戒す

二月十九日　張學良と滿鐵木村理事の交渉を前に支那各界は圓滿解決は不可能なりと觀測す

二月　奉天官憲の機關として排日的放送を事とする東北支化社は撫順炭坑大山炭自然發火の際（爆發と稱する程度のものに非ず）人の死者をも出でざりしに不拘三千人の坑夫爆死せりとの不都合なる宣傳をなし右取消方を我方より抗議せるも之に應ぜず

二月十九日　海城驛附近に二十名の馬賊侵入掠奪を行ふ

二月二十日　安東東方の渾水泡にある我警官派出所に鮮人團來襲警官應戰幼兒二名重傷す

二月廿六日　支那の關稅制度に關し全滿商工會議所聯合會は鑛定價格不統一、不等評價を問題として非難さる

二月廿八日　渾水泡の警官派出所襲擊犯人に對する安東署の捜査隊は岫岩附近にて支那公安隊の爲め抑留され安東米澤領事嚴重抗議す

二月廿八日　張學良總司令部の命にて東三省熱河察哈爾河北綏遠の全軍統率し得た旨を全國に通電す

三月二日　奉天競馬場附近にて馬賊と警官交戰し奉天警察非常召集す

三月五日　奉天取引所の特產市場本日より開始さる

三月六日　滿蒙鐵道交渉第一回會見行はる

三月六日　安奉線蛤蟆塘五龍背間にて線路上にバラスを乘せあるを監視のモーターカー發見す

三月八日　鐵嶺奧地清源縣居住の鮮人に對して支那地主村長等退去を强要妥協交渉困難に陷る

三月九日　昌圖南方にて列車投石事件發現し守備隊出動す

三月十二日　滿鐵地方委員聯合會政府要路に宛て滿蒙積極政策の斷行に關する陳情をなせり

三月十五日　奉天吉林黑龍江熱河に黨部組織の準備をなす

三月中旬　遼寧省政府は外交部特派員に對し虎石台附近にて獨立守備步兵第二大隊中隊巡察兵は匪賊なりとして善良なる農民を射殺す、日本領事に嚴重抗議すべしと訓令し守備兵の行動を傷すべの結果支那兒童なる事判明嚴戒を加ふ

三月十六日　安奉線沙河鎭附近にて線路上に黑煉瓦を置き列車運行を妨害せんとせるものあり取調吉林省各縣に於て鮮農に對する支那官憲の橫暴甚だしく各縣より長春附屬地に避難し來れる數は八十八家族、三百八十五名に達す、吉林永衡官銀號奉天吉林兩財政廳の許可を得て大豆買占の爲に新紙幣五百萬元を發行す

三月十七日　國民政府日支電信交涉を開始し左の提議を行ふ

一、延吉琿春間の電信回收

二、滿鐵附屬地電信回收

三、滿鐵借用線の回收

四、奉天新民間の長距離電信借用權回收

五、長春大連間長距離電信回收

三月十九日　東北外交機關遼寧外交特派員公處を華北交涉署と改む

三月二十日　撫順共產黨事件發表さる

三月廿六日　王正廷は公文を以て撫順炭礦にて採掘中のオイルシエールは重要なる礦物なるが故に滿洲五案件に關する協約第三條の規定に照し其の採掘權を中國に返還されたしと通告す

三月廿七日　奉天駐在步兵第三十三聯隊大場少尉の引率せる下士以下約八十名の步兵奉天千代田公園附近にて夜間演習中突如支那巡警十餘名一齊に我軍めがけて射擊し馬賊と間違つたと述べたが特務機關では日本領事の手を經て直接支那に交涉す

三月卅一日　哈爾賓總領事大橋忠一に決定す

四月　日　支那は四月　日より戾稅を廢し免稅單を發行する事としたが特に大連港に限り此の免稅單を發給せざる事にしたので大連經由の輸入外國貨物は玆に二重課稅を課せらるる事となる

四月二日　吉林省黨部成立大會を擧行す

四月四日　カラハン莫德惠の正式會議六日より開始に決す

四月五日　本溪湖奧の上達貝江の鮮農六名支那官憲より壓迫され不法監禁されしも我抗議で釋放

さる同地方在住の鮮農四百名にて土地商租に對して高壓的態度を採る

四月初旬　突如駐屯の東北陸軍騎兵一個營約五百名逃亡馬賊となり農安方面にて掠奪を行ふ

四月十一日　露支國境東支線附近鮮人に對して支那官憲は四月一日より立退きを要求し來る、同地には約千名の鮮人在住し重大視さる

四月十二日　四洮線八面城邦人南佐一方に馬賊來襲し佐一實兄及妻女射殺され重傷す

四月十五日　齊々哈爾方面の支那官憲の排日漸次露骨となり朝鮮人の交渉禁止、家屋貸借の禁止、日本商人の排斥等行はる

四月十六日　首山驛にて馬賊巡捕を襲撃し拳銃を奪取す

四月十六日　滿鐵地方事務所長會議にて滿鐵附屬地の自治行政促進を論議す

四月中旬　張學良との鐵道交渉何等進展を見ずと傳へらる

四月十八日　吉海鐵路局では吉長吉敦兩線の客貨吸收策として突如吉海線、吉林東站より吉長線吉林該站前まで一キロ線路延長工事を斷行すべく測量を開始す、我當局之に抗議す

四月十八日　東北省を遼寧吉林黑龍熱河河北延吉呼倫貝爾の七省に分つ

四月二十日　吉林省當局間島及琿春に散在する鮮人民會の撤廢を密令す

四月廿二日　張繼氏張學良　歡迎會にて吉海線問題で毒舌を吐く

四月廿五日　關稅二重徵收は日支關稅條約違反なりとして滿鐵遂に對策を講ず

五月一日　一度支那開港場に輸入せられたる貨物が再び支那港に輸送せられる場合には從來戻稅制度の適用に依り關稅の二重負擔を避け來りたる處昭和六年五月支那側に於て戻稅制度を廢止したる結果大連を除く支那港に向ふ再輸出品に對しては輸出港に於て免稅證書を發給し戻稅實施當時と同じく關稅の二重負擔を免かれしめ居るも獨り大連に對してのみは免稅證書の發給を爲さず我方より數次要求したるにも不拘支那側の容る處とならず

安東附屬地內支那人經營の燐寸工場圓華公司に對し印花稅の納入を强要し稅捐局では商務會に對し附屬地內一般華商も印花稅を納入すべき事あらざれば附屬地外搬出に對して購買者より徵收することを通告す

東北省政府のマッチ專賣制實施さる

遼寧省にて營業稅を實施し附屬地在住の支那商にまでも營業稅を賦課せるため問題重大化せんとす

五月三日　奉天西北寧北鐵路沿線板橋子附近に馬賊出沒し日本側警戒を行ふ

五月四日　遼寧省にて實施の附屬地支那人に對する營業稅問題に就き警察署から附屬地在住支那人は新稅負擔の要なりと嚴命す

五月初旬　桓仁縣通化日本領事館駐在員に對し桓仁縣長排日態度を採り駐在員使用の建物所有に貸與禁止の命を發す

長春縣東支沿線西方にて水田約一千天地の貸借契約を結び開墾に當り居る鮮農百八十七名に對し縣長の命なりとして五月二日迄に退去すべしと命じ來りしが同地附近は日本官憲の保護を受くる事容易ならず鮮農は犧牲者を出しても鬪ふ旨決意する處あつた

五月五日　安奉線鳳凰城鷄冠山間の踏切り附近にて線路上に七、八貫の石塊二個放置しあるを鐵道巡視の鳳凰城守備隊池田巡察兵發見す

遼寧省政府の附屬地支那人に對する不當課稅に關して我領事より抗議す

五月十一日　東三省外交協會南京の東北代表に宛て旅大、安奉線回收、在滿日本駐在軍撤退、郵便局取消を緊急提議せよと打電す

五月上旬　黑龍江の支那兵五十餘名逃亡の上馬賊に投ず

五月十二日　日支鐵道の第二回交渉開催に決定し雙方より六名宛の委員決定す

遼陽の滿洲紡績會社に對し支那側不當課稅をなす我領事館の抗議に對し支那側は更に同社製品賣買を禁止す

國民外交協會は旅大安奉線の回收軍警の駐屯撤廢郵便局の廢止を要求せよと國民會議に打電す

五月十六日　安奉線沙河鎭蛤蟆塘間の軌道に約二貫位の石塊を置き運行妨害を企つ守備隊現場に急行檢證す

五月十八日　虎石臺守備隊寺島一等卒他三名王家屯踏切警戒の爲め潛伏中三十名の支那官兵同地踏切に差懸り石塊を軌條に積み、又衆を賴みて日本兵を包圍し營內よりも武器を所持せる支那兵多數加はり日本兵を脅威するに至り日本兵は敢然其の指揮官を詰問し詫證文を要求せるに彼は日本兵が支那語を知らざるを利用し（理由なきに拘らず日本兵は支那兵の行軍を阻止せり）なる書附を交附して之を愚弄せり

五月十九日　安奉線鳳凰城高麗門驛間にて線路上に石を乘せ列車運行を妨害せるものあるを發見守備兵總出動して犯人搜査に從事す

五月二十日　四平街にて建築材料に使用する砂は正式に支那側と折衝採取權を有するに拘らず支那官憲は右砂の附屬地內搬入の馬車夫に對して過大の罰金を加へ問題となる

五月廿一日　安奉線本溪湖奥地上達貝溝にて支那巡警約百名押掛け同地鮮人に對し三日内に立退きを命じ不法壓迫し奉天總領事より嚴重抗議す

五月廿二日　哈爾賓にて日本人衝突事件起り邦人商店明治洋行を蹂躙し邦人に數名の重傷者を出さしむ

五月廿三日　長春縣萬寶山灌水工事に關し鮮支人爭ひ形勢重大視さる

五月廿四日　撫順附近を荒したる馬賊天下好外幹部四名支那側高等審判廳より死刑に處さる

五月廿五日　長春萬寶山の鮮農に對する支那側（壓迫事件發生し形勢惡化す

懸案中なりし滿洲紡績會社の納稅問題は日支當局間に諒解成立し自發的納稅の形にて圓滿解決す

遼寧省にて排日氣分溢れ（盜賣國土懲罰法）を省内四十八縣に通令す

哈爾賓道外居住の邦商十四軒全部に對し營業支拂命令書交付さる

五月廿七日　長春三道溝沙臺子の鮮農八戸十三名に對して支那官憲は國籍を有せざるの故を以て退去すべしと命令す

遼寧省政府木材業者及建築業者に外國の建築用材を使用すべからずと布告す

五月卅一日　長春萬寶山の鮮農壓迫問題に關し其の後二百名の保衛隊員鮮人部落に赴き鮮人の退去を命じ來り婦人子供危險を感じて長春に避難日支官憲の間に嚴重抗議開始さる、本溪湖附近にて邦人經營の石灰製造現場に支那巡警多數乘込み石灰製造の中止を命じて問題を惹起す

奉天在住富山縣人會の一行は東陵に赴き野遊會を開催歸途五臺のトラックにて城内四平街附近に來りし時西洋人と衝突した事から邦人一行支那巡警のため暴行を受け運轉手其他三四名負傷す

六月一日　在北平の張學良ロックフェラー病院に入院す

六月一日　四平街支那官憲同地經營の公濟號農場にて築堤を築造せるを兵營築造なりと惡宣傳して排日口實となす

六月一日　支那國民政府は突如撫順炭の海外輸出に對し一大增稅をなす事となり總稅務司より大連稅關長を通じて滿鐵に正式に通告し來り重大なる外交問題として成行重大視さる、因に撫順煙臺の石炭に對しては撫順煙臺兩炭坑細則に關する議定書により每噸銀一メースの輸出稅を納付する事に決定し右議定書は明治四十四年より向ふ六十年間有效なるに不拘支那側に於ては一方的に新輸出稅を賦課するに至れるものなり

六月三日　長春萬寶山に於ける支那側の鮮農壓迫は愈ゝ露骨化し長春縣長公安局の保安總隊長以下百三十名大擧して出動し鮮農の强制退去に着手し我警察も出動し武裝準備す、因に同地には鮮

農四百名支那地主との間に三百六十町歩の土地を商租し居れり

奉天驛構内西北線路のポイント軌條内に石を搬入す

六月四日　大石橋娘々廟祭二日より行はれ居りしが四日取締の爲め私服警察官一名同所に至れるに支那巡警數名些細の事より包圍口論の結果巡警は無法にも拳銃を發射し我警官隊鎭壓に赴きしに更に之に對しても發砲サイドカーに二發命中す、之がため公安隊長以下十五名大石橋警察に引致嚴重取調を爲す

通遼の東亞勸業農場にて同所の築堤工事を兵營工事と惡宣傳し支那側は之を妨害の爲め遊擊隊四十名を派遣の上工事に從事せる苦力頭を逮捕し一千五百名の苦力小屋を燒打をなす

六月五日　張學良病氣の爲め滿蒙鐵道交渉無期延期となる

六月六日　支那側の矢繼早なる强硬政策に帝國の滿蒙政策は脅かされ局面打開をなすべしとする民論大いに起る

六月七日　瓦房店四國人會野遊會に際して巡警と群衆とが衝突し邦人一名輕傷二名重傷す

煙臺炭礦附近にて軌條に石を置き列車妨害を企てし事件發覺守備隊之が對策に腐心す

六月八日　撫順炭礦課稅問題に關して重光代理公使南京政府に對して嚴重抗議す

奉天富山縣人會に對する支那巡警の暴行事件支那側陳謝して解決す

遼寧省財政當局城内の我貿易商に對して營業稅を五日以内に納入し賣上金を當局に通達する旨通報來りしも奉天總領事館にては絕對不可なりとし之を納入せざる樣命令すると共に此旨支那側に通告す

六月九日　遼陽滿洲紡績に對し支那側が營業稅及統稅を賦課し更に駐商員を置くべしと要求せるに對し日本側は嚴重抗議す

萬寶山農場の鮮人壓迫問題に關し日支官憲對峙し妥協を折衝す

六月十日　支那側にて奉天城内に在る日本人に對し營業稅を賦課せんとする問題は領事館と支那側との間に解決するに至らず領事館側は極力拒絕の方針に決す

通遼方面にて外交協會分會が中心となり排日を煽動した

六月十日　張宗昌突如大連に着す

六月十二日　哈爾賓大橋領事支那側より不承認の通告を受く

滿鐵總裁仙石貢副總裁大平駒槌辭して總裁に内田康哉伯副總裁に江口定條氏決定す

六月十五日　遼陽滿洲紡績の課稅問題は附屬地外にて納稅する事に決す

六月十六日　本溪湖支那人經營の石炭業を壓迫我當局より抗議す
六月十七日　長春附屬地にて支那巡警群衆を煽動し我警官包圍され投石するに至り一名負傷す
六月十七日　朝鮮總督齋藤實子辭任後任に宇垣前陸相任命さる
六月十八日　萬寶山問題にて吉林政府代表施履本と林奉天總領事と會見約三時間に亙り意見の交換をなす
六月十九日　新民縣下陳家屯に八十名の馬賊來襲公安隊と數時間交戰す
六月二十日　葫蘆島築港工事請負會社と奉天當局間に確執起る
六月廿三日　渾河の南方二千米の地點にて支那武裝巡警驛員の制止を拒みて橫斷し携帶の拳銃にて威嚇す
六月廿五日　萬寶山堰止工事二十四日より開始すべく我方より支那側に通告をなす
開原にて我警察隊馬賊を襲ひ五名を射殺す
六月廿六日　支那人暴徒哈爾賓にて日本人小學校を襲撃し投石を行ふ
六月廿七日　支那側外交後援會內日支鐵道交涉監視會は一兩日前日支鐵道交涉に關する激越なる聲明書を發し場合によりては日本と經濟絕交を辭せずとの聲明を發した
六月廿八日　吉海、吉敦兩線八月一日より起工に決す
六月三十日　奉天加茂町粹山前路上にて支那巡警我警官と衝突拔劍して脅かす
國民政府は支那沿海の我漁船を驅逐すべく領海を十二哩に擴張し七月一日より領海內の漁獲を禁止する旨電命す
七月一日　曩に伊通河堰止工事問題にて形勢惡化せる萬寶山にて堰止工事を再開せるに支那暴民五百名百間餘の水路を埋むるの暴擧をなし鮮農二百名に對して暴行を加へ支那騎馬巡警三百名出動し我警官隊も亦出動大緊張を呈す
七月二日　萬寶山事件のため我武裝騎馬隊及警官二十名急行す
七月二日　吉林省扶餘縣第八區警察區內に居住し水田經營をなせる六十三戶三百餘名の朝鮮人に對し七月二日支那官憲立退を强要鮮人家屋を沒收す
七月三日　萬寶山事件は朝鮮仁川にて鮮人の反支那熱を惹起し全市隨所にて鮮支人の衝突を惹起す
其の他の各地にて同樣事件發生我當局之が取締を行ふ
七月三日　萬寶山事件にて鮮人五十名支那官憲に逮捕され百名の巡警監視のもとに吉林に護送さ

れ我方も亦警官隊を增加して對峙す、支那暴民一時退散す

萬寶山事件に關して幣原外相より森島領事に訓電來り支那側に對して嚴重抗議を提出す

長春公學堂にて萬寶山問題に關する市民大會を開催して要路に要請す

七月四日　白音太來在住の鮮人に對し支那官憲は八月一日を以て退去せしむる旨を支那側當局と談合した

萬寶山問題に次で長春奥地扶餘縣陶賴昭居住の鮮人に對し引揚を命じ二十餘名長春に引揚來る

七月六日　朝鮮各地の鮮人支那人に對する暴動京城、仁川、開城、沙里院、鎭南浦、元山、陝川、公州、清州、群山、裡里、光州の主要都市に及ぶ

七月六日　長春附屬地にて支那兵士我派出所に投石し主犯一名逮捕さる

七月七日　長春の支那學生萬寶山事件で學生二千名市中遊行を行ひ排日氣勢を揚ぐ

陶家屯に馬賊現はれ警備中の哨兵に發見され交戰後退却す

支那官憲は遼寧省の鮮人を組織的に驅逐の計畫を樹て六日から調査に着手し吉林では鮮人十名の銃殺事件起る

七月八日　萬寶山事件に關しては支那側誤解を一掃して解決事件の原因なりし水路工事は其の儘進むる事に決し又奉天森島領事よりは在滿日鮮人の保護を支那側に要請した、哈爾賓にて鮮人小學兒童二十二名通學の途中支那人學生又は巡警のため投石毆打され三年生張吉龍は頭部に一週間の負傷を蒙り他の學生も輕傷を受く

七月九日　朝鮮總督府の公報によれば全鮮に於る支那人の被害死亡百名負傷百六十七名を算す

七月九日　安奉線沙河鎭驛にて支那人約六百鮮人に暴行をなし負傷者を出し鮮人四十七名は全部沙河鎭附屬地に避難せしむ

長春城內にて萬寶山事件に關し支那側大々的にデモンストレーションをなし排日氣分を煽る

一面坡に在住せる鮮人に對する支那官憲の壓迫甚だしく巡警二十名突如鮮人居留民會に踏込み民會長以下三十四名を逮捕す

安東六道溝にて支那暴民のため慘殺されたりと思はるる二鮮人の屍體發見さる

七月十日　吉林省張作相は鮮人排斥を訓令した

七月十二日　錦縣方面の排日甚だしく昭和五年二月排日勃發前は三十戸近くあつた邦人が一年半を經過した今日半減十四戸に減少す

七月十三日　上海にて日貨排斥援僑大會開催對日經濟絕交を決議す

七月十四日　滿鐵線と北寧線のクロス附近にて奉天守備兵と支那群集衝突を惹起す
哈爾賓支那團體朝鮮事件に遭難せる支那人の救助を理由とし聯合會を開き排日經濟絶交決議す
七月十六日　萬寶山事件に關し林總領事と張作相との會見行はる
七月十六日　萬寶山問題に關し吉林に赴いて居た東亞日報長春通信員金利三支那側の密偵の爲め慘殺さる
哈爾賓の總商會市黨部の多數團體萬寶山問題にて排日運動を起す
七月十七日　支那側稅捐局我行政權を侵害し附屬地內露支商に對し營業登記の手續を迫り問題となる
七月十八日　上海にて日貨排斥愈ゝ猛烈となる關內東北軍兵力增力の爲め黑龍江軍一萬洮昂線を經由し京津に向け出動す
七月十九日　遼寧省稅捐局にて附屬地境界線に監視員四十名を配置し附屬地より城內に搬入の貨物に對して嚴重なる檢査を開始し附屬地城內の商取引全く杜絶す
七月廿二日　國民政府萬寶山事件に關して萬寶山より（一）日本警官の卽時撤退（二）鮮人耕地商租契約の根本取消（三）損害賠償要求

（四）損害査定の爲日支共同調査をなす事を重光代理公使宛抗議書を手交す
七月廿二日　廿二日長春にて靴商邦人安田要之助支那兵の爲め慘殺さる
七月廿三日　湯崗子南臺間に約三十名の馬賊來襲し鞍山守備隊より加來中尉指揮の討伐隊出動す
七月廿四日　營業稅賦課問題から支那兵の壓迫のため附屬地の支那商人閉店八戸を算す
七月廿四日　奉天省長省政府訓令を出して排日運動を取締る事となる
七月廿五日　陳相屯驛南方に馬賊來襲人質を拉去す
七月廿六日　奉天遼寧國貨提唱會生れ日貨排斥運動開始さる
七月廿七日　參謀本部部員步兵大尉中村震太郎氏は關東軍司令部付陸軍々屬元騎兵曹長井杉延太郎氏及露國人蒙古人各一名を從へ支那官憲發給の護照を所持し六月上旬中東鐵路西部線博克圖驛附近を發し濟泌川上流地區札鄂特王府西方地域蘇鄂公府を經て東南に向ひ旅行し六月廿七日頃洮索地方蘇王鄂府に進出し同地飯店に立寄り喫食中同地駐屯奉天公安屯墾隊第三所屬軍憲は上司の命を受け之を襲ひ不法にも拉致監禁し金品拳銃を强奪し軍事探偵の嫌疑で支那側將校監視下に銃殺した
七月廿八日　東支鐵沿線にて逮捕され護送された鮮人十四名手錠を卸して引車に押込み吉林に護送

さる、共産黨員なりとして檢擧せしものなり

奉天公會堂にて日本人自主同盟時局大演說會を開催す

勸業公司通遼農場使用の支那人李國恒に對し支那官憲賣國奴の名目で拘禁さる

七月卅一日　鞍山の滿洲銀行支那店出納係主任馬賊の爲め人質として拉去十五萬圓の身代金を要求し馬賊千山の天險に據りて頑强に抵抗鞍山より警官隊三十名出動す

八月五日　國民政府外交部は日支間に於ける最近の紛爭事象は日本が滿蒙に有する既得權を放棄せざる以上根本解決不可能なりと放言す

八月八日　奉天に於る稅捐局員の不當行爲に對して我領事館側の意嚮は附屬地の我權益を飽く迄正當に確保すべく稅捐局員の不當取扱は直ちに總領事館に申出でる樣示達さる

八月九日　奉天北方虎石臺滿鐵車廠を支那暴徒襲擊す

八月上旬　長春支那側にて長春外交協會組織され排日排貨運動開始し左の則を決す

一、無抵抗主義

二、日本品を買ふべからず

三、日本人に物品を賣るべからず

四、日本人に使役せらるるな

八月十三日　長春の行商人支那人八百名外交協會の煽動にて突如同盟休業し附屬地市民食料攻めに遭ひ野菜の供給を斷たれ事態重大視さる

八月十六日　大馬賊團紅勝長勝の三百名鄭家屯附近に出沒し大倉組員を人質にし各所を襲擊するなど重大化す

八月十七日　長春の野菜行商取消事件に關し之に對抗の爲め長春警察は附屬地內支邦行商人の營業許可を取消內鮮人に許可するに決す大連及安東の統稅二重課稅問題に就き當局は國民政府に嚴重抗議すべく調査開始さる

八月十八日　中村震太郎大尉の虐殺事件發表され林奉天總領事は臧式毅氏に嚴重抗議す

八月十八日　鞍山方面馬賊頻りに出沒し我警官隊出動交戰一名を射殺し一名逮捕す

八月十九日　開原縣靑陽堡（昌圖、伊通、開原）に於ける邦人奉天吉川組經營の石山に對して支那官憲之が回收を企て吉川組は之を拒絕す

八月十九日　鄭家屯一帶に五百名の馬賊團出現す

八月廿一日　共産黨員の嫌疑のもとに哈爾賓方面にて支那人の手に逮捕されし鮮人の釋放に關し我

總領事館より要求中釋放さる

萬寶山問題に關する交渉行詰り支那側の最終目的は鮮農の追込みにある爲め更に林奉天總領事より警告を發す

八月廿二日　海城畜産山會邦人小林經營の唐山農場に馬賊二十餘名來襲し小林善人を人質に拉去し海城市民會要路に宛て救出を要請す

八月廿三日　開原附近にて（鐵嶺開原間）電信線改築工事の爲め邦人四名支那人八十名工事中を馬賊に脅迫され關原守備隊警察當局出動嚴戒を加ふ

八月下旬　岫岩にて同地居住の邦人頓宮秋穗の家屋建築に對し支那側官憲より工事中止を命ぜられ安東署より支那側に抗議す

八月廿六日　東北外交協會の中村大尉事件に關する不法に我軍部激昂す

八月廿七日　中村大尉虐殺事件より日本人護照の差格的待遇問題發見さる

八月廿九日　范家屯附屬地に馬賊來襲し一名を射殺一名人質とし長春警察署より署員出動警戒す

撫順にて馬賊我警官と衝突し我羽田春之助巡査重傷を負ふ

奉天淀町七（附屬地內）八ケ代副領事の宅に（打倒日本帝國主義　回收租地）と記せるを發見す

八月卅一日　海城公安局騎兵海城附近の馬賊と交戰す、同地方の馬賊出沒頻々として起り市民は當局と協力自衞隊を組織す

中村大尉事件に對して支那側第一回調査員驚くべき虛構を遼寧省主席に報告し事態益ゝ重大化す

九月一日　撫順にて馬賊我派出所に拳銃を亂射す

中村大尉虐殺事件に關して關東軍は最高幹部調査員の齎した報告に基き林總領事を訪問重要會見を遂ぐ

九月二日　東北交通委員會國民政府鐵道部に對して全國各鐵道に對し日貨輸送を禁止する旨命令されたしと打電す

九月三日　奉天西北方板橋子附近に馬賊團來襲し女二十名を人質として去る

九月四日　中村大尉事件に關して支那側林總領事更に會見調査員を派遣に決す

九月五日　陸軍々政制改革案成る、滿洲駐劄師團制は從來の留守隊制廢止に決す

九月七日　撫順新屯勞務課課員馬賊の爲め白晝人質として拉去さる

九月八日　我政府は中村事件に關して意見の交換をなし調査回答如何によりては斷乎たる處置を執るに決す

九月九日　林總領事は奉天省咸主席と會見張學良の意見を齎せる榮臻の報告に關して更に協議を續行す

海城東門外に約五十名の馬賊來襲し公安隊と一時間餘交戰日本側守備隊憲兵出動す

虎石臺北方にて滿鐵の輕油動車（四平街發奉天行）に馬賊乘込み乘客の所持品を强奪守備隊警察隊出動す

九月十日　中村事件に關し土肥原大佐は軍部に實力解決を進言す

九月十一日　中村大尉慘殺事件は愈ゝ奉天に於て正式交渉を開始することになり支那側は湯爾和を全權代表とし林總領事と折衝す

九月十二日　中村大尉事件に關する日支間の關係險惡化し參謀長榮臻と林總領事の會見を行ふ中村大尉虐殺事件新調査隊主任現地出發せりと傳へし虛說にて十二日夜漸く出發支那側の不誠意に日本側極度に憤慨す

四平街附近の泉頭派出所に馬賊來襲交戰の後守備隊よりも應援出動追擊す

九月十四日　本庄關東軍司令官沿線の馬賊橫行甚だしき爲め長春にて馬賊對策を決し守備隊司令官に對して左の訓示を爲した

近時馬賊の跳梁甚だしく鐵道の運行を妨害し剩へ附屬地を窺ふもの多きは誠に寒心に堪へず我武威を輕視する之等不逞の徒に對しては進んで斷乎たる處置をとり鐵道守備を完うすると共に帝國在留民の不安を一掃するに努むべし

九月十五日　中村大尉事件犯人は支那憲兵所爲なる事判明支那側委員より遼寧當局宛確報來る、下手人は屯墾第三團　少尉なりと榮臻參謀長我領事に言明す

九月十五日　滿鐵本線揚木林驛より獨立守備隊第一大隊第一中隊佐藤軍曹以下五名四平街に歸る途中三十餘名の馬賊を發見我守備兵直に之に應戰したが一行中の大崎金五郎一等卒賊彈に當り斃る守備隊出動馬賊を追擊す

支那側萬寶山事件と中村事件とを相殺せんとする支那側の意圖に對し我政府之を一蹴す

九月十六日　中村事件の責任者關玉衡洮南より來奉東北憲兵司令部に留置され軍法會議に廻さる

九月十七日　通遼方面にて邦人經營の漢字紙に對する壓迫日に烈しく次第に讀者を減殺するに至る營口附屬地に七十名の馬賊現はれ營口警察及大石橋守備隊出動す

范家屯に馬賊來り我警官と交戰守備隊も出動す

九月十八日　午後十時四十分北大營より支那正規兵滿鐵線の鐵道破壞を企て我守備隊分遣隊之を攻

擊せるに更に五六百名の支那兵來擊し來りし爲め直ちに我軍戰鬪を開始し之を北大營北方に擊退す

九月十九日　奉天駐劄第二十九聯隊は北大營の戰鬪開始の報に商埠地内占領の目的で十九日午前零時五十分北營を出發聯隊本部を小西邊門に移し駐劄營軍隊では十八日午後十一時廿五分より北大營東方に向ひ砲擊を開始し北大營は十九日午前零時四十分占領す、又奉天守備隊は工業區及同地迫擊砲廠を占領し駐劄隊は商埠地一帶の巡警を一掃して之を占領した

午前二時二十分我裝甲自動車三臺　奉天城小西開の攻擊を開始し二時五十分東北飛行隊は我軍の爲め占領され全部武裝を解除す

奉天城内に在る邦人は全部滿鐵公所内に避難し我鐵道附屬地は憲兵警察官在鄕軍人にて嚴重警備を開始す

十九日午前六時半奉天城内完全に占領し奉天獨立守備隊滿洲守備隊遼陽十六聯隊入城す

午前十時五十分第二師團司令部着奉天驛貴賓室に司令部を設置す

十九日午前三時四十分關東軍司令部奉天へ出發す

長春守備隊駐屯軍は午前四時南嶺寬城子を攻擊す

砲十二門を破壞す

十九日午前十一時寬城子遂に降伏す

十九日午前五時營口練軍營と河北驛を占領し公安局の武裝解除をなす

十九日陸軍省にては奉天事變の解決策として滿蒙問題解決まで保障占領を繼續する意向と傳へらる

九月二十日　關東軍司令官は二十日午前十時林總領事と協議の結果奉天城内に軍政を布くに決す、獨立守備隊第一、第二大隊東大營占領第二師團司令部長春に移動す

本溪湖にて我守備隊公安局を襲擊す

奉天に市政を布き市長に土肥原大佐任命さる長春方面の逃亡兵公主嶺方面に現はれ同地襲擊の報傳はる

撫順にて支那兵戰備を整へ山上に砲列を布く

九月廿一日　撫順城を完全に占領す

齊々哈爾滿鐵公所に爆彈を投ず

吉林軍擊退の爲め長春駐劄軍出動す

哈爾賓日本側に爆彈投下頻々と行はる第二師團の一部敦化を占領す

九月廿二日　長春一帶電信電話切斷され危險の報あり

鄭家屯通遼方面に敵軍集中さる

敦化方面の多數鮮人に危險迫り吉林から第二師團の一部出動す

二月廿三日　國聯理事會より日支兩國政府に對し日支の軍事行動擴大を速に阻止されたしと要望し來る

九月廿四日　撫順方面にて鮮農敗走軍警に虐殺さる

九月廿四日　巨流河新民方面匪賊と敗兵と合して附近に出沒の爲め我軍討伐隊急行す

通遼大倉組農場員邦人十名馬賊團に捕へらるとの報に接す

奉天城大東門外で我歩哨馬賊に襲はれ戰死す

九月廿六日　支那側にて袁世凱を委員長とする治安維持會組織さる

九月廿七日　滿洲事變に際し蒙古の獨立運動具體化され蒙古青年黨活躍す

九月廿九日　支那官民反張各團體は事變に際會し機至れりとして滿蒙各地に滿蒙獨立運動政府建設を爲すべく運動を開始す

新政權を樹立し劃然支那本土と絶緣す。

この運動に參加せるもの

一、舊支那側文治派の有力者を中心とせるもの

二、肅親王家を成し清朝を盛り立てんとする運動

三、北支蒙古の青年聯盟

四、全滿各地の國民維持會

九月廿九日　遼寧省政府を錦縣に移動設置す

九月三十日　鄭州にて田中領事以下邦人京濱線で漢口に引揚虎口を脫す

九月三十日　張學良外人暗殺を企圖するとの報至る、王以哲軍の敗兵西安縣城を襲ひ大掠奪し邦人婦女一名慘殺さる

十月一日　支那兵三千開原を襲擊し來り我軍激戰をなす

王以哲の敗殘兵鷄冠山方面に遁れ鮮人十一名を虐殺し家屋六戸を燒き拂ふ

八果樹方面にて東北軍の敗殘兵暴虐を働き我軍掃蕩に出動す

張海鵬洮南にて完全に獨立を宣言保境安民をなす

十月二日　袁世凱を委員長とする地方維持委員會臧式毅を首腦として遼寧省自治政府を樹立す
牛莊にて暴徒八百名叛亂通信杜絶官公街燒き拂はれ危險の通報至る
鄭白線の大林に馬賊現はれ放火掠奪行はる
十月三日　支那側滿洲新政權樹立に對し我政府に抗議し來る、我之に對して何等責任をとるべき地位にあらずと回答す、閣議にて在滿鮮人の保護を積極的に行ふに決し右の旨本庄關東軍司令官に訓令來る
十月三日　奉天市政公署治安維持に活躍し金融の開始　食糧配給等の問題に活躍す
我軍部錦州政府は認めず舊來の東三省官憲を徹底に膺懲する旨聲明す
支那兵の慘敗兵は各所にて暴威を振ひ二十二日撫順風河溝にて掠奪放火鮮人十三名を虐殺廿一日より廿三日迄東鷄冠山にても九名の鮮人を虐殺せりの報至る
十月四日　關東軍司令部滿洲新政權樹立に關し三千萬民衆の爲め樂土の實現を熱望し東洋永遠の平和を確立すべきを望む旨聲明をなす
張學良舊政時代の罪惡史東北民衆により列擧される罪惡事實左の如し
一、政治上の罪狀群兇を使用せぬこと
二、紙幣の濫發
三、軍政の腐敗
四、亡國外交
五、教育の惡化
六、交通會訂の不正
七、阿片の利得
八、人命輕視
關東軍司令官は我軍の警備區域內にて一切の政治運動を許さずとの布告を一般民衆に發す
十月五日　上海にて經濟絶交運動行はる
十月五日　吉林省東部國境四縣にて獨立宣言行はる
蒙古方面の獨立運動着々進行す
哈爾賓にて支那敗慘兵鮮農三名を拉致す
范家屯方面の鮮農敗兵の掠奪移動にて續々亂石山方面へ避難す
十月六日　張學良の密使地方維持委員會に對し獨立運動に關與し賣國奴となり支那國民の反感を

買ふ勿れと戒告す

十月六日　四平街守備隊敗兵匪戰討伐にて苦戰をなす

洮南にて獨立を宣言せる張海鵬黑龍江政府に政權引渡を要求す

張學良全軍を錦州に集中日軍と對峙を開始す

十月八日　錦州にて張學良軍我飛行機を猛射す

十月九日　我軍四平街と昌圖から敗兵と土匪を挾擊す

洮南の張海鵬齊々哈爾進擊す

十月九日　帝國政府南京政府に排日運動を嚴重抗議す

十月十日　國聯第二次通告に對し帝國政府回答す

十月十三日　在滿洲の言論機關時局に關し大連に會合の上左の共同聲明を行ふ

一、速かに日支兩國間に於ける一切の懸案を解決し日支共存共榮の實現を期す

二、滿洲事變後に於ける支那敗殘兵匪土匪の橫行跳梁に依る內外各國居住民の被害恐怖に鑑み之れが萬全の保護を期す

三、全市に亙る排日狀勢を根絕し日支兩國國交激化の原因除去を期す

四、滿蒙に於ける日支兩國間の條約、權益及現狀を中外に闡明し一切の誤解曲說誹謗一掃を期す

五、對支外交に關する國論の一致を期す

昭和六年十月十三日

哈爾賓日日新聞　哈爾賓通信社
日滿通信社　奉天每日新聞社
奉天新聞社　奉天日日新聞社
奉天公報社　奉天電報通信社
北滿日報社　長春實業新聞社
遼鞍每日新聞社　遼東タイムス社
關東報社　開原新報社
關東實業時報社　大連新報社
泰東日報社　大北新報社
滿洲日報社　滿洲報社
マンチュリアデリーニュース社　滿洲新報社

滿洲通信社　撫順新報社
國境每日新聞社　鐵嶺時報社
安東新報社　安東每日新聞社
吉林時報社　四洮新聞社
盛京時報社

十月十一日　天津にて排日運動旺んに行はる
十月十三日　滿洲事變發生以來支那兵のため虐殺されたる鮮人は全滿を通じて四百名に達す
北寧線方面の兵匪一齊に掃蕩開始さる
各方面に支那便衣隊橫行し警戒嚴重を極む
十月十三日　南子の形勢惡化我海軍に出動命令下る
十月十四日　張海鵬軍既に安奉鎭に着す、十五日政權讓渡行はる
十月十六日　張海鵬軍と黑龍江軍齊々哈爾入城に際して果然衝突を惹起す
十月十九日　地方維持委員會態度漸く定まり遼寧省の全責任を負つて中心機關として活動するに決す

支那敗慘兵通遼農場を燒打ちす
十月二十日　奉天市政事務支那側引渡に決し後任奉天市長に趙欣伯任命さる
十月廿一日　王以哲軍大汎河附近に現はれ我軍之を攻擊す
十月廿三日　凌軍前衛張學良軍と對峙す
十月廿四日　鞍山方面大馬賊團橫行す
蘇家屯附近に敗兵二百現はれ我軍出動之を四散せしむ
鄭家屯通遼間兵匪に占領され主要驛の慘狀目も當てられず
公主嶺附屬地にて我警官襲擊さる
十月廿四日　國聯にて十一月十五日迄に撤兵完了を要求す
十月廿六日　滿蒙獨立研究會新たに組織され四民維持會を主體として政權運動を開始す
十月廿七日　鐵嶺にて王以哲殘兵鐵路橫斷なさんとして交戰す
十月廿九日　新東北交通委員會成立す
十月卅一日　凌印清等敵軍に捕虜となる
馬占山對抗主戰論を高唱す

十一月二日　吉長吉敦兩鐵路合併終了す

十一月五日　通遼方面事態惡化し我軍出動して通遼驛を占領す

我軍專ら交通治安の恢復に全力を擧げ敗殘兵馬賊の討伐を極力行ふ

北滿方面馬占山軍我軍に對峙し不穩の形勢を呈す

大興一帶にて黑龍江軍と我軍の衝突行はる

十一月七日　十月廿八日以來滿洲事變を機として活動せる中國共產黨五十數名檢擧さる

十一月六日　鞍山西方に千二百名の馬賊團來襲し大石橋守備隊四百名出動

十一月七日　遼寧省政府愈ゝ組織さる委員左の如し

袁世凱　張成箕　于沖漢　金梁　闕朝璽　齋恩銀　丁鑑修　高毓衡

北滿に於る黑龍江軍との對戰重大化す

馬占山赤衞軍中の國際軍に屬する支那軍人を加ふる事明かとなる

十一月十四日　新遼寧政府開廳式盛大に擧行さる、海城南臺方面に敗慘兵馬賊出沒し我守備隊掃蕩を行ふ

十一月十三日　公主嶺北方にて馬賊と我軍交戰我負傷多數を出す

沙河驛にて輕油自動車に馬賊乘込襲はれ邦人車掌と機關士生命危篤に陷る

奉天の各國團體滿洲の治安不安の狀態に鑑み全市を擧げて撤退反對增兵を要求するの聲起り大示威運動行はる

十一月十四日　馬賊三十騎南臺湯崗子方面にて滿鐵列車を襲擊我守備兵交戰擊退す

十一月十五日　馬占山軍に對し我治安維持の必要上十五日より十四日以內に齊々哈爾以北に撤退せんことを要求す

馬占山軍我提言に從はず嫩江方面にて我軍を襲擊し來る

公主嶺長春方面に馬賊及支那軍逆襲し來る

十一月十七日　大興方面の黑龍江軍我軍に抵抗の爲め自衞的見地より勦討を開始するに決し關東軍司令部聲明を發す

關東廳にて全滿の治安維持に萬全を期する爲め警官三百名を增員するに決す

十一月十八日　我軍馬占山軍を擊破し齊々哈爾城を占領す

十一月十八日　匪賊板橋子にて我警官駐在所を襲擊し守備隊出動掃蕩す

十一月二十日　撫順方面にて馬賊橫行警官出動す

省名（遼寧）を（奉天）と改稱す

十一月廿一日　蔣介石滿洲出征を聲明し學良をして日本軍に對峙を命ず

十一月廿二日　新民縣方面の態度惡化し錦州の支那軍と通じて策動を開始す

十二月四日　錦州政府の榮臻、錦州東北軍を南下せしめ奉天の包圍を計畫し日本軍を擊破すべしと豪語愈々對日行動を開始するに至る

十二月二日　山海關にて我守備隊長に對し支那軍威嚇をなす

十二月二日　我軍遼西進出中止に關して陸軍當局聲明を發表す

十二月三日　昂々溪附近にて學良別動隊が我軍の後方擾亂の爲め滿鐵沿線にて出沒した數本日まで

に三四一件に達す

十二月七日　馬賊奉天新城子一帶に出沒し警察軍部と連絡し嚴重討伐に當る

滿鐵技術員伊藤萬治、中村嚴藏兩氏吉長、吉敦鐵路局の廟にて敦化東方地區の交通狀況調査中支那側より狙撃を受け即死す

百名の馬賊牛心臺を襲撃し邦人人質となる我軍警討伐を行ふ

錦州方面の事態憂慮され張學良軍の行動に對し關東軍嚴重監視す

十二月八日　馬賊牛心臺を襲撃し驛派出所を燒き拂ひ巡捕三名即死警官三名負傷す

十二月九日　奉天附近馬賊來襲奉天警察出動交戰す

十二月十一日　關東東方にて馬賊亂暴し公安局自衛團長拉致さる

十二月十三日　巨流河方面にて學良別動隊我五兵士を猛射し我軍戰死二、負傷一を出す

馬賊安奉線方面にて破壞を企圖し我軍交戰之を撃退す

十二月十五日　錦州軍の正規兵板橋子に迫り奉天守備隊出動撃退す

錦州軍の別動隊河北に迫り田庄臺掠奪を受く

馬賊二百公大堡に現はれ放火掠奪我警察隊出動撃破す

十二月十六日　懷德縣城を我軍總攻撃し馬賊の討伐を行ふ

十二月十七日　錦州方面の支那軍惡化し兵力五萬を算す

我陸軍遼西の馬賊討伐のやむなきを發表して討伐決行をなす

五道溝（公太堡附近）の馬賊掠奪放火し鮮人二名慘死し五道溝全滅す

安奉線林家臺驛に馬賊來襲し驛員警官交戰撃退す

十二月十八日　久留米第十二師團に動員令下り朝鮮部隊と交代渡滿す

十二月十九日　通遼方面の馬賊一千遼北に進出し實力增大に努め形勢重大視さる

錦州政府と連絡を採りし馬賊團滿鐵沿線の襲撃を計畫し昂圖、四平街、八面城方面を中心に活動を開始す

錦州正規兵遂に進出打虎山に戰備を整ふ

滿洲各地の匪賊錦州軍に策應し義勇軍の名のもとに出動開始す

十二月十二日　關東軍遼西一帶の匪賊討伐行動を開始す

十二月廿一日　從來未解決の懸案となつてゐた哈爾賓の特別區に於る外人の土地不動產一切を承認する件支那側と我當局との交渉進み解決を見た

十二月廿二日　我軍匪賊を擊破して通江口法庫内に入城す、我軍戰死五、負傷四を出す

十二月廿三日　我軍匪賊を討伐し田庄臺を占領す

十二月廿四日　營口、田庄臺、牛心臺その他各地に匪賊義勇軍集結され我討伐に奔走す

十二月廿六日　匪賊突如鳳凰城驛を襲撃し電信電話切斷され我部隊苦戰に陷り鷄冠山、連山關、本溪湖より我軍救援に出動す

田庄臺新氏等にて大部分の匪賊來襲し我部隊激戰の後之を撃退す

十二月廿六日　關東廳は時局の爲め奉天警察署樓上に出張所を設置し各方面より連絡を執る事となつた

十二月廿八日　多門師團の主力全軍を三手に分つて盤山方面の匪賊討伐に出動す

十二月廿八日　東北軍近く新民攻撃を企圖す、錦州軍に飽くまで死守すべきを命令す。

十二月廿九日　守備隊司令部奉天に移駐す

十二月三十日　臧奉天省長より本庄軍司令官に宛て土匪討伐を請願す

附記＝滿洲建國＝上海事變＝支那事變＝中華民國臨時政府樹立＝中華民國維新政府樹立＝暴支膺懲第三段階に入る。

かくして支那に於ける日本の占領地には時を移さず治安維持會が結成された、汪精衞氏の重慶脫出は世界注視の的となり、汪氏の日本訪問、近衞聲明による新中國々民政府の誕生、育成は、東條首相の登場によつて更に强力なる援助となつて現れ、大東亞戰爭の勃發と共に滿洲國　中國々民政府は大東亞共榮圈完遂上の重大なる核心的存在として、大東亞の解放と世界再建の歷史的決戰　協力提携して。道義的世界の建設に、人類永遠の和平を求めて米英を滅亡せしめる決戰を敢行しつゝあるのである。

三、滿洲事變、支那事變と大東亞戰爭の概說

一、滿洲事變

滿洲事變の終熄によつて一時的にもせよ、東亞の情勢は軍事的に非常に明朗化して、滿洲國の誕生は、亞細亞に嚴然たる偉力を添へ、世界注視の發展をみた滿洲獨立國家は、內治、外交、財政、經濟、貿易、軍事、交通に亙り劃期的の整備を完了した、殊に治外法權の撤廢、對蘇、對支關係の調整、日本移民の滿洲移植發展は、强力なる滿洲經濟を決定的に約束化し、今日大東亞戰爭に總力を擧げて協力するの力を保有せしめた。而して經濟振興の基礎となつた產業開發計畫は建國匆々の豫想外の難局を克服してよく所遮の目的を達成、五族協和、王道樂土の大滿洲國を形成して、一昔である十周年を記念するに至つたことは、日本の心血を注いだ滿洲事變の犧牲が有終の美を結んだものであると稱すべきである。萬一この事變が不幸にして我に不利を結果付けたとしたならば、東亞の安定は全く不測出來ざる狀態に立到つたであらう。こゝに滿洲事變の眞意義が窺知されるのである。

二、支那事變と大東亞戰爭

蔣介石の抗日徹底教育が、支那事變勃發の動因となり、容共、抗日の惡政が事變の長期化に拍車をかけ、東亞共存同榮の精神と、國父孫文の大亞細亞主義、親日政策を蹂躙した重慶政權のために收拾しがたき東亞の混亂を招來、事變發生以來五年、東亞人の面皮を被る蔣が米英惡鬼の術策の掌中に傀儡劇の主人公を演じて、未だに大義に自覺せず、はては最愛たるべき妻宋美齡を唯一の武器として米國に派して、救援、援護の太鼓を叩かせた蔣介石の胸中寔に憐憫の情にたへざるも、如何にせん頑迷なる彼は、自ら死を求めて抗戰、抗日の餓飢道を驀進してゐることは、一方に於て汪精衛氏を主席とする新國民政府育成發展の現狀と對照するのとき誤れる彼蔣介石の運命はおして知るべきであらう。

米、英が豪語せる日本くみし易しの定見は大東亞戰爭の大戰果が決定的に之を覆へして、いたづらに思想謀略的宣傳に、失した戰果を充實すべく、あがきにあがいてゐるが、これとて大東亞十億民族の團結の前に何ものがあるか、吾等の撃滅精神の行くところ、既に前途は廣大なる希望と建設が見透されるのである。だが敵もさるものである。決して安逸たるを許されぬであらう。

かくして支那事變は大東亞戰爭の今日の段階に到達して、世界的戰爭へと豫想し難き戰火の路を驀進してゐるのである。

吾等は今この非常難局に直面して、よく日本魂を發揮して世界の再編成と大東亞共榮圏の完遂を達觀するとき、帝國及び滿洲國の責務は今日より大ならざるは無いであらう。

茲に大東亞建設史實を收錄して敢て大東亞の過程を顧みた譯である。（完）

昭和十八年八月二十日初版印刷
昭和十八年八月二十五日初版發行
（三、〇〇〇部）

滿洲經濟の新動向

定價金二圓三十錢
特別行爲稅相當額拾錢
合計金二圓四十錢

著作者　渡邊武史

發行者　東京都豐島區池袋二ノ一一一六
徳島武

印刷者　東京都牛込區早稲田鶴巻町一一一
松榮社印刷所
松坂兵吉
（東東三三二番）

（認承會版出
い　20124號）

發行所　東京都小石川區竹早町三五
振替東京一六五一六一番
（會員番號一一一二三五番）
紙硯社
電話小石川五四四六

配給元　日本出版配給株式會社
東京都神田區淡路町二ノ九

新刊 支那通商史談

對滿支問題研究所編＝價一、七〇 〒〇、一五

歐米の支那大陸干渉は先づ經濟問題から出發してゐる。彼等の通商上の壓迫史を播き四億支那民衆が過去の歴史に殘した通商上の諸問題と民族性を把握し以て大東亞共榮圏の經濟建設を提唱せねばならぬ此の意義を詳述したのが本書である。

米國戰時經濟論

國策研究會調査局坂入長太郎著 價一、七〇〒一五

敵米國内の戰時經濟動員の眞相を暴露し軍擴に熱注する彼等の反面に於ける羊頭苦肉の策に鋭利なるメスを入れて解剖したのが本書である。銃後を護る吾々は先づ敵戰米國の實狀を觀察せねばならぬので特に本書を推奨す。

現代ビルマの經濟

南方圏經濟研究所編 價一、三〇 〒一五

ビルマ及び南方に進出せんとする者は彼地の經濟事狀を研究せねばならぬ。今大東亞共榮圏の一翼を負ふ大ビルマ及びその近圏の全貌は如何？ ビルマ事情を知るのよき好伴侶書である。

南方共榮圏と華僑

渡邊武史著 價一、五〇 〒〇、一五

一度南方に足を入れた者の第一に驚くのは支那華僑の金儲けの才と努力である。華僑を無にしては南方の經濟はあり得ない彼等の踏まれても踏まれても立起つた眞實を知る事によつて大東亞の指導者たる日本の存在がある。南方を志すと否とに不拘是非一讀すべきもの。

＝（紙硯社發行 振替東京一六五一六一）＝

961
226

東京大學圖書館藏(書庫)